

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
音楽 I		演習 (実技)	堀切真寿美、前田聡子、梶原裕子 下山愛、豊田牧子、阿部宏絵
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
30回	2単位	1年前期・1年後期	選択必修 (保) ・必修 (幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		ピアノ実技 60% 歌唱実技 30% 授業への取り組み姿勢 10%	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
領域及び保育内容の指導法に関する科目			
[授業の目的・ねらい]			
子どもへの豊かな音楽経験を提供できる保育者として、保育・教育現場で歌われている童謡などの子どもの歌の弾き歌いができることを目標とする。			
[授業全体の内容の概要]			
一斉授業として、子どもの前で範唱するために、発声の基礎と童謡の歌唱法を修得する(30分)。また、コード伴奏法を学ぶグループレッスン(60分)と経験及び個人差の異なる学生に対応した複数教員で担当するピアノの個人レッスンを並行して行う。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
①音楽理論の基礎の修得 ②ピアノ伴奏法の基礎の修得 ③コード伴奏法の基礎の修得 ④童謡曲の弾き歌いの基礎の修得			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	1年前期(30回中の15回)		
1	・ガイダンス ○授業概要の説明、受講の注意 ○グループ・個人レッスンのクラス分け		
2	(一斉授業) 季節の歌(4月)	(グループレッスン) ハ長調「ちょうちょ」「ぶんぶんぶん」	(個人レッスン) 学生の進度に応じた個人レッスン
3	季節の歌(4・5月)	「チューリップ」「きらきらぼし」	(個人レッスン)
4	季節の歌(4・5月)	「ビーマーチ」	(個人レッスン)
5	季節の歌(4・5月)	「こどりのうた」	(個人レッスン)
6	季節の歌(6月)	「とけいのうた」	(個人レッスン)
7	小まとめ①(テキスト(1)~(3)より任意の「子どものうた」、テキスト(2)「生活のうた」、「ビーマーチ」より演奏)		
8	季節の歌(6月)	「おはよう」「はをみがきましょう」	(個人レッスン)
9	季節の歌(6月)	「すてきなパパ」	(個人レッスン)
10	季節の歌(7・8月)	「おつかいありさん」	(個人レッスン)
11	小まとめ②(テキスト(1)~(3)より任意の「子どものうた」、テキスト(2)「生活のうた」、「ビーマーチ」より演奏)		
12	季節の歌(7・8月)	「かたつむり」「おべんとう」	(個人レッスン)
13	季節の歌(9・10月)	ハ長調「きらきらぼし」「おばけなんてないさ」	(個人レッスン)
14	季節の歌(9・10月)	「おかたづけ」「ハッピー・バースデー・トゥ・ユー」	(個人レッスン)
15	前期まとめ(テキスト(1)~(3)より任意の「子どものうた」、テキスト(2)「生活のうた」、「ビーマーチ」より演奏、歌唱)		
[使用テキスト・参考文献]			
(1)株式会社 学研プラス「保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻改訂版」 (2)株式会社 学研パブリッシング「保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第2巻」 (3)(有)ケイ・エム・ピーkmp「保育園・幼稚園で楽しめるこどものうた大全集 改訂版」 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省) 必要に応じてプリントを配布する			
備考			
ピアノ演奏は、ホールにて発表を行う。また、歌唱演奏は、音楽表現教室にて発表を行う。			

実務経験[堀切]

平成12年3月 武蔵野音楽大学音楽学部声楽学科卒業  
平成14年3月 日本大学大学院芸術学研究科音楽芸術専攻修了  
平成15年3月 第48期 二期会オペラ研修所予科修了  
平成16年3月 第48期 二期会オペラ研修所本科修了

在学中、学内オペラ團伊玖磨の「夕鶴」のつう役、ビゼーの「カルメン」のミカエラ役、モーツァルトの「フィガロの結婚」のロジーナ役に出演。また学内コンサート「Music Perception」や「ヌーン・コンサート」等ではソロ出演、ベートーベンの「第九」等の合唱にも出演した。

大学院修了後は、井上真弓氏が設立した声楽グループ「ナトゥーラ」に所属し、毎年さまざまなテーマで研究発表をする他、三郷ウェンズデーロータリークラブのクリスマス会等に出演し、現在に至る。

大学院修了まで声楽を井上真弓、山口道子、斎田正子、丹羽勝海の各氏に師事。

現在は、隔年行われる武蔵野音楽大学附属江古田音楽教室の子どもたちのオペラ公演で副指揮をつとめた他、日本女子大学附属豊明幼稚園で幼稚園教諭の指導をされていた井上真弓氏に師事、研鑽を積んでいる。

井上真弓:武蔵野音楽大学講師、同大学附属人間音楽教室主管

二期会、二期会ロシア歌曲研究会、日本演奏連盟、日本リハルト・シュトラウス協会、各会員

実務経験[前田]

ヤマハのピアノ講師の経験を持つ。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
音楽 I		演習 (実技)	堀切真寿美、前田聡子、梶原裕子 下山愛、豊田牧子、阿部宏絵
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
30回	2単位	1年前期・1年後期	選択必修 (保)・必修 (幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		ピアノ実技 60%	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分		歌唱実技 30%	
領域及び保育内容の指導法に関する科目		授業への取り組み姿勢 10%	
[授業の目的・ねらい]			
子どもへの豊かな音楽経験を提供できる保育者として、保育・教育現場で歌われている童謡などの子どもの歌の弾き歌いができることを目標とする。			
[授業全体の内容の概要]			
一斉授業として、子どもの前で範唱するために、発声の基礎と童謡の歌唱法を修得する(30分)。また、コード伴奏法を学ぶグループレッスン(60分)と経験及び個人差の異なる学生に対応した複数教員で担当するピアノの個人レッスンを並行して行う。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)]			
①音楽理論の基礎の修得 ②ピアノ伴奏法の基礎の修得 ③コード伴奏法の基礎の修得 ④童謡曲の弾き歌いの基礎の修得			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	1年後期(30回中の15回)		
1	(合同授業) 合唱	(グループレッスン) へ長調「山の音楽家」	(個人レッスン) 学生の進度に応じた個人レッスン
2	合唱	「まつぼっくり」	(個人レッスン)
3	合唱	「おかえりのうた」「きのこ」	(個人レッスン)
4	合唱	「きのこ」	(個人レッスン)
5	合唱	「バスごっこ」	(個人レッスン)
6	合唱	「ミッキーマウス・マーチ」	(個人レッスン)
7	小まとめ③(テキスト(1)(3)より任意の「子どものうた」3曲、テキスト(2)「生活のうた」より演奏)		
8	季節の歌(12月)	ニ長調「おはようのうた」	(個人レッスン)
9	季節の歌(12・1月)	実習に向けての課題曲	(個人レッスン)
10	季節の歌(12・1月)	実習に向けての課題曲	(個人レッスン)
11	季節の歌(12・1月)	実習に向けての課題曲	(個人レッスン)
12	・実習前音楽指導 ・小まとめ④(実習に向けての課題曲、テキスト(1)(3)より任意の「子どものうた」1曲)		
13	・実習前音楽指導 ・小まとめ⑤(実習に向けての課題曲、テキスト(1)(3)より任意の「子どものうた」1曲)		
14	季節の歌(12・1月)に親しむ	ニ長調「豆まき」	(個人レッスン)
15	前期まとめ(テキスト(1)(3)より任意の「子どものうた」3曲、テキスト(2)「生活のうた」、歌唱)		
[使用テキスト・参考文献]			
(1)株式会社 学研プラス「保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻改訂版」 (2)株式会社 学研パブリッシング「保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第2巻」 (3)(有)ケイ・エム・ピーkmp 「保育園・幼稚園で楽しめるこどものうた大全集 改訂版」 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省) 必要に応じてプリントを配布する			
備考			
ピアノ演奏は、ホールにて発表を行う。また、歌唱演奏は、音楽表現教室にて発表を行う。			

実務経験[堀切]

平成12年3月 武蔵野音楽大学音楽学部声楽学科卒業  
平成14年3月 日本大学大学院芸術学研究科音楽芸術専攻修了  
平成15年3月 第48期 二期会オペラ研修所予科修了  
平成16年3月 第48期 二期会オペラ研修所本科修了

在学中、学内オペラ團伊玖磨の「夕鶴」のつう役、ビゼーの「カルメン」のミカエラ役、モーツァルトの「フィガロの結婚」のロジーナ役に出演。また学内コンサート「Music Perception」や「ヌーン・コンサート」等ではソロ出演、ベートーベンの「第九」等の合唱にも出演した。

大学院修了後は、井上真弓氏が設立した声楽グループ「ナトゥーラ」に所属し、毎年さまざまなテーマで研究発表をする他、三郷ウェンズデーロータリークラブのクリスマス会等に出演し、現在に至る。

大学院修了後まで声楽を井上真弓氏、山口道子、斎田正子、丹羽勝海氏に師事。

現在は、隔年行われる武蔵野音楽大学附属江古田音楽教室の子どもたちのオペラ公演で副指揮をつとめた他、日本女子大学附属豊明幼稚園で幼稚園教諭の指導をされていた井上真弓氏に師事、研鑽を積んでいる。

井上真弓:武蔵野音楽大学講師、同大学附属人間音楽教室主管

二期会、二期会ロシア歌曲研究会、日本演奏連盟、日本リハルト・シュトラウス協会、各会員

実務経験[前田]

ヤマハのピアノ講師の経験を持つ。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
図画工作		演習(実技)	森 大
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
30回	2単位	1年前期・1年後期	選択必修(保)・必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		課題提出物 30% 授業態度 10% 授業内確認小テスト 60%	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
領域及び保育内容の指導法に関する科目			
[授業の目的・ねらい]			
<p>子どもの年齢や発達に合わせた造形活動指導方法を実践を通して理解し習得する。                      保育者として必要な造形技能の基礎を習得する。                      自らの創造性を育み、発想力を鍛える。</p>			
[授業全体の内容の概要]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園・保育園で保育者が指導する造形活動の技能(道具・材料の扱い、準備・片付けの仕方、制作工程、指導の留意点、声かけの仕方など)を自らが実践して学ぶ。</li> <li>・子どもへの造形指導方法だけでなく、保育者として園の運営に関わる造形技能をグループ制作を通して学ぶ。</li> </ul>			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢や発達に合わせた子どもへの造形活動指導方法を理解し習得していること。</li> <li>・習得した技能を活用し実践及び応用できていること。</li> </ul>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	1年前期(30回中の15回)		
1	ガイダンス(造形活動の意義、技能について。基礎的な道具・材料について。)		
2	自己紹介を通して①(イラスト・キャラクターの描き方の基礎を学ぶ)		
3	自己紹介を通して②(コラージュ技法を学びながら自己表現について理解を深める。)		
4	描画材について①(シールアート。発想を豊かにする材料の取り扱いについて学ぶ。)		
5	五感トレーニング①(目に見えない音を描くことに挑戦し想像力を鍛える。)		
6	子どもと好奇心について(好奇心の引き出し方について学ぶ。トリックアート。)		
7	五感トレーニング②(身体で描くことの意義について学ぶ。フィンガーペイント。)		
8	五感トレーニング③(身体の動きとの連動について学ぶ。フェルトボール。)		
9	描画材について②(マーブリング・折染め技法を通して応用の方法を学ぶ。)		
10	共同制作について①(グループ単位での共同制作を通して協同や役割の意義について学ぶ。)		
11	共同制作について②(クラス単位での共同制作を通して協同や役割の意義について学ぶ。)		
12	造形材料について①(既製品を材料にした制作方法。フラワーアート。)		
13	造形材料について②(既製品を材料にした制作方法。セロハンテープアート。)		
14	鑑賞とまとめ(作品を「鑑賞」することの意義について。)		
15	前期の振り返り		
[使用テキスト・参考文献]			
幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材 (2018年度版 萌文書林) 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携認定こども園教育・保育要領 授業ごとに適宜資料を配布する。			
備考			
定期テストは実施しない			

実務経験

【個展】

「森大 個展」 「秋山画廊」 東京 2011年12月  
「森大 -maquette-」 「キアズマ珈琲 gallery」 東京 2010年10月  
「森大 展 metabolism」 「GALERIE SOL」 東京 2006年10月  
「森大 個展」 「GALERIA RASEN」 東京 2001年3月

【グループ展】

「横浜の森美術展6」 「横浜動物の森公園予定地」 横浜 2013年10月  
「11 POINT」 「BOX KIOKU」 東京 2010年9月  
「ANBD Asia Network Beyond Design 2010」 清州 (韓国) . 台南 (台湾) . 天津 (中国) . 横浜 (日本)  
2010年7月  
「ANBD Asia Network Beyond Design 2009」 天安 (韓国) . 台南 (台湾) . 天津 (中国) . 奈良 (日本)  
2009年7月  
「THE 5th ART PROGRAM OME 2007」 「青梅市西分町公会堂」 東京 2007年11月  
「第7回 CONTEMPORARYART TRIAL「CAT展」 「グリーンホール相模大野」 神奈川 2007年9月  
「07 POINT」 「BOX KIOKU」 東京 2007年3月  
「maquette展」 「GALERIE SOL」 東京 2006年10月  
「cm3 空間表現三人展」 「明星大学展示室」 東京 2005年8月  
「千崎千恵夫・森 大展」 「GALERIE SOL」 東京 2004年11月  
「青梅野外展」 「GALERIA RASEN」 東京 2002年7月  
「志向する空間／それぞれの視座 Vol.3」 「GALERIA RASEN」 東京 2001年11月  
「WORKS2000」 「文房堂ギャラリー」 東京 2000年2月  
「第二回 FUJINO 国際アートシンポジウム'99」 神奈川県藤野町市街地 1999年8月  
「三人展」 「Gallery KARIN スペースII」 東京 1998年3月

【他】

Japan Fashion Week in TOKYO 2008  
(株) キャンザーオンズ「ENCADREURS」アートディレクター 「国立代々木競技場第一体育館」 東京  
2008年2月  
「さいたま新都心駅前パブリックアート」 さいたま新都心駅前広場 恒久設置 2000年5月

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
図画工作		演習 (実技)	森 大
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
30回	2単位	1年前期・1年後期	選択必修 (保)・必修 (幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		課題提出物 30% 授業態度 10% 授業内確認小テスト 60%	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
領域及び保育内容の指導法に関する科目			
[授業の目的・ねらい]			
<p>子どもの年齢や発達に合わせた造形活動指導方法を実践を通して理解し習得する。                      保育者として必要な造形技能の基礎を習得する。                      自らの創造性を育み、発想力を鍛える。</p>			
[授業全体の内容の概要]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園・保育園で保育者が指導する造形活動の技能(道具・材料の扱い、準備・片付けの仕方、制作工程、指導の留意点、声かけの仕方など)を自らが実践して学ぶ。</li> <li>・子どもへの造形指導方法だけでなく、保育者として園の運営に関わる造形技能をグループ制作を通して学ぶ。</li> </ul>			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢や発達に合わせた子どもへの造形活動指導方法を理解し習得していること。</li> <li>・習得した技能を活用し実践及び応用できていること。</li> </ul>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	1年後期(30回中の15回)		
1	立体造形制作Ⅰ-①(立体造形の意義とその材料・技法について。粘土造形。)		
2	立体造形制作Ⅰ-②(立体造形作品の仕上げ方、展示方法、保管方法について。粘土造形。)		
3	立体造形制作Ⅱ-①(張り子のお面制作。材料・技法について。)		
4	立体造形制作Ⅱ-②(張り子のお面制作。装飾、仕上げ方について。)		
5	立体造形制作Ⅱ-③(張り子のお面制作。材料・技法の応用について。)		
6	身体装飾及び大道具・小道具制作(お遊戯会に関する造形制作について。)		
7	想像力トレーニング(題名のつけ方について。糸引き絵。)		
8	サイトスペシフィック制作①(その「場」ならではの作品制作について。フロッタージュ。)		
9	共同制作①(壁面装飾の意義とその制作方法について。)		
10	共同制作②(大型作品の取り扱いについて。)		
11	サイトスペシフィック制作②(その「場」ならではの展示について。ペーパーステンドグラス。)		
12	ポップアップカード制作①(これまで学んだ技能の総括的制作。)		
13	ポップアップカード制作②(仕上げ。発表を通じた鑑賞について。)		
14	基礎技能の確認とまとめ		
15	後期の振り返り		
[使用テキスト・参考文献]			
幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材 (2018年度版 萌文書林) 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携認定こども園教育・保育要領 授業ごとに適宜資料を配布する。			
備考			

定期テストは実施しない

実務経験

【個展】

「森大 個展」 「秋山画廊」 東京 2011年12月  
 「森大 -maquette-」 「キアズマ珈琲 gallery」 東京 2010年10月  
 「森大 展 metabolism」 「GALERIE SOL」 東京 2006年10月  
 「森大 個展」 「GALERIA RASEN」 東京 2001年3月

【グループ展】

「横浜の森美術展6」 「横浜動物の森公園予定地」 横浜 2013年10月  
 「11 POINT」 「BOX KIOKU」 東京 2010年9月  
 「ANBD Asia Network Beyond Design 2010」 清州 (韓国) . 台南 (台湾) . 天津 (中国) . 横浜 (日本)  
 2010年7月  
 「ANBD Asia Network Beyond Design 2009」 天安 (韓国) . 台南 (台湾) . 天津 (中国) . 奈良 (日本)  
 2009年7月  
 「THE 5th ART PROGRAM OME 2007」 「青梅市西分町公会堂」 東京 2007年11月  
 「第7回 CONTEMPORARYART TRIAL「CAT展」 「グリーンホール相模大野」 神奈川 2007年9月  
 「07 POINT」 「BOX KIOKU」 東京 2007年3月  
 「maquette展」 「GALERIE SOL」 東京 2006年10月  
 「cm3 空間表現三人展」 「明星大学展示室」 東京 2005年8月  
 「千崎千恵夫・森 大展」 「GALERIE SOL」 東京 2004年11月  
 「青梅野外展」 「GALERIA RASEN」 東京 2002年7月  
 「志向する空間／それぞれの視座 Vol.3」 「GALERIA RASEN」 東京 2001年11月  
 「WORKS2000」 「文房堂ギャラリー」 東京 2000年2月  
 「第二回 FUJINO 国際アートシンポジウム'99」 神奈川県藤野町市街地 1999年8月  
 「三人展」 「Gallery KARIN スペースII」 東京 1998年3月

【他】

Japan Fashion Week in TOKYO 2008  
 (株) キャンザーオンズ「ENCADREURS」アートディレクター 「国立代々木競技場第一体育館」 東京  
 2008年2月  
 「さいたま新都心駅前パブリックアート」 さいたま新都心駅前広場 恒久設置 2000年5月



授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
幼児体育		演習	福原 千枝
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
30回	2単位	1年前期・1年後期	選択必修(保)・必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		授業課題の習熟度(40%) ステップの発表(40%) 授業への取り組み方(20%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
領域及び保育内容の指導法に関する科目			
[授業の目的・ねらい]			
<p>幼児期の遊びの大切さ、特に運動遊びの大切さと保育者の役割について理解する。 運動遊びの実践を通して、その遊びの特性、楽しさ、指導のポイントを学習する。</p>			
[授業全体の内容の概要]			
<p>前期は運動遊びができる身体作りを行う。伝承遊び・盆踊りを学習し、子ども達と「七夕まつり」を実践する。 後期は運動遊びの実践的学習を行い、遊びの特性、楽しさ、指導のポイントを学ぶ。最後は身体表現遊びを行い、創作ダンス発表会を行う。</p>			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
<p>運動遊びの大切さを理解し、保育者の役割について認識を深める。 運動遊びの指導・援助方法を理解し、子どもと楽しく遊ぶことができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	1年前期(30回中の15回)		
1	ガイダンス、初めて会った時の遊び		
2	準備体操(前半1/3解説)、柔軟体操、伝承遊び①かごめかごめ		
3	準備体操(中盤1/3解説)、柔軟体操、伝承遊び②はないちもんめ		
4	準備体操(後半1/3解説)、柔軟体操、伝承遊び③だるまさんがころんだ		
5	本学2年生と運動遊びをしよう		
6	盆踊り「動物音頭」、伝承遊び④あわぶくたつた		
7	盆踊り「アンパンマン音頭」、伝承遊び⑤通りゃんせ		
8	盆踊り「ドラえもん音頭」、伝承遊び⑥竹の子1本		
9	伝承遊び⑦今年のぼたん、行事活動の取り組みについて		
10	幼児とともに楽しむ「七夕まつり」の実践		
11	準備体操、ステップ①歩く、スキップ、身体表現遊び「鳥と木と嵐」		
12	準備体操、ステップ②ツーステップ、身体表現「つばめの親子」		
13	準備体操、ステップ③ギャロップ、④ポルカステップ、身体表現「遊園地」創作活動		
14	準備体操、ステップ⑤ワルツステップ、身体表現「遊園地」発表		
15	ステップのまとめ、発表		
[使用テキスト・参考文献]			
<p>保育が選んだ遊びの本 文化書房博文社                  保育所保育指針、幼稚園教育要領                  幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p>			
備考			
定期テストは実施しない			

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
幼児体育		演習	福原 千枝
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
30回	2単位	1年前期・1年後期	選択必修(保)・必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		授業課題の習熟度(40%) 創作ダンスの発表(40%) 授業への取り組み方(20%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
領域及び保育内容の指導法に関する科目			
[授業の目的・ねらい]			
<p>幼児期の遊びの大切さ、特に運動遊びの大切さと保育者の役割について理解する。 運動遊びの実践を通して、その遊びの特性、楽しさ、指導のポイントを学習する。</p>			
[授業全体の内容の概要]			
<p>前期は運動遊びができる身体作りを行う。伝承遊び・盆踊りを学習し、子ども達と「七夕まつり」を実践する。 後期は運動遊びの実践的学習を行い、遊びの特性、楽しさ、指導のポイントを学ぶ。最後は身体表現遊びを行い、創作ダンス発表会を行う。</p>			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
<p>運動遊びの大切さを理解し、保育者の役割について認識を深める。 運動遊びの指導・援助方法を理解し、子どもと楽しく遊ぶことができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	1年後期(30回中の15回)		
1	幼児の発達に応じたボール遊び①持つ、手渡す		
2	幼児の発達に応じたボール遊び②投げる		
3	幼児の発達に応じたボール遊び③蹴る		
4	幼児の発達に応じたボール遊び④ゲーム		
5	劇の中のダンス		
6	幼児の身体を使った遊び①鬼遊び		
7	幼児の身体を使った遊び②力くらべ遊び		
8	道具を用いた遊び①縄遊び		
9	道具を用いた遊び②新聞紙遊び		
10	身体表現「忍者」イメージの探求、グループ編成、創作活動		
11	身体表現「忍者」グループ毎の創作活動、発表		
12	創作ダンス「世界のお話」(テーマ決定、グループ編成、選曲)		
13	創作ダンス「世界のお話」(グループ毎の動きの探求、創作)		
14	創作ダンス「世界のお話」(グループ毎の創作活動、作品へのまとめ)		
15	創作ダンス「世界のお話」発表会		
[使用テキスト・参考文献]			
<p>保育が選んだ遊びの本 文化書房博文社 保育所保育指針、幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p>			
備考			
定期テストは実施しない			

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
国語表現法		講義	親泊 朝晴
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	2単位	1年前期	選択必修(保)・必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		作文演習 40% 読解演習 30% 語彙力テスト・提出物他 30%	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
領域及び保育内容の指導法に関する科目			
[授業の目的・ねらい]			
国語による適切かつ効果的な表現力や伝え合う力を育成し、保育士・幼稚園教諭として柔軟に対応できる力を養う。			
[授業全体の内容の概要]			
作文演習を中心とする。また、表現力を支える語彙力の強化のため小テストを継続して実施する。思考力の伸長を期して読解演習と実践的な表現を学ぶ。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
自己の考えをきちんとまとめることができ、論理性・正当性を備えた文章を書き、伝える力を身につけること。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	授業ガイダンス・作文演習①・語彙力テスト		
2	読解演習1・作文の書き方(基本を学ぶ)・語彙力テスト		
3	作文演習①の講評・作文演習②・語彙力テスト		
4	読解演習2・実用的な表現(手紙の書き方)・語彙力テスト		
5	作文演習②の講評・作文演習③・語彙力テスト		
6	読解演習3・実用的な表現(保護者宛文章の書き方)・語彙力テスト		
7	作文演習③の講評・作文演習④・語彙力テスト		
8	読解演習4・実用的な表現(実習日誌の書き方)・語彙力テスト		
9	作文演習④の講評・作文演習⑤・語彙力テスト		
10	読解演習5・実用的な表現(敬語を学ぶ)・語彙力テスト		
11	作文演習⑤の講評・作文演習⑥・語彙力テスト		
12	読解演習6・実用的な表現(敬語を学ぶ)・語彙力テスト		
13	作文演習⑥の講評・実用的な表現(履歴書の書き方)・語彙力テスト		
14	まとめ1(学習の振り返りと確認)・語彙力テスト		
15	まとめ2(学習の確認と今後の課題・学習方法の提示など)		
[使用テキスト・参考文献]			
授業中に適宜、資料を配付する。			
備考			
定期テストは実施しない。			

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
保育原理		講義	實川 慎子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	2単位	1年前期	必修(保)・選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の本質・目的的理解に関する科目		授業内小試験、授業態度、授業の中で課す課題などから総合的に評価する。(授業態度30%、小試験及び課題70%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
選択科目			
[授業の目的・ねらい]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の意義・目的及び法令・制度について理解する。</li> <li>・保育所保育指針における保育の基本を理解する。</li> <li>・保育の歴史的変遷及び現状と課題について理解する。</li> </ul>			
[授業全体の内容の概要]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の最善の利益を考慮した保育、保育の社会的意義、保護者との協働などについて学び、保育の意義を理解する。</li> <li>・養護と教育の一体性、環境を通して行う保育、発達過程に応じた保育とは何かを学び、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示す保育の基本となる考えについて理解する。</li> <li>・生活と遊びを通して行う保育や、計画・実践・記録・評価・改善の過程の循環について学び、保育の内容と方法の基本について理解する。</li> <li>・保育の歴史的変遷および現状と課題について考察する。</li> </ul> <p>グループによる話し合いでは積極的に参加するとともに、他者の考えや意見に耳を傾け、自分の考えや理解を深めるようにする。</p>			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園・保育所・認定こども園等の保育の意義及び目的と、保育に関する法令及び制度を理解する。</li> <li>・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示される保育の基本及び保育の内容と方法の基本を理解する。</li> <li>・保育の歴史的変遷と現状について理解し、課題を考察する。</li> </ul>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	授業ガイダンス・保育とは何か(保育の意義及び目的と保育に関する法令及び制度について)		
2	保育の基盤としての子ども観(保育指針と保育の基本原則)		
3	子ども理解から出発する保育(子どもの最善の利益と保育)		
4	子どもが育つ環境の理解①物的環境・人的環境		
5	子どもが育つ環境の理解②レジャ・エミリアの幼児教育から学ぶ		
6	保育内容・方法の原理①事例を通して考える(養護と教育の理解)		
7	保育内容・方法の原理②保育実践のDVD視聴		
8	保育の計画と実践の原理		
9	保育における健康・安全の原理及び多様な子どもと共に育つ保育		
10	保育の歴史に何を学ぶか		
11	保育者に求められるもの(子ども家庭福祉と保育の目標)		
12	現代の子育てと子育て支援		
13	保育の現状と課題(子ども・子育て支援新制度を含む)		
14	学習内容の確認		
15	保育原理の振り返り・まとめ		
[使用テキスト・参考文献]			
保育原理(渡邊英則・高嶋景子他 編著) ミネルヴァ書房 最新保育資料集2020(大豆生田啓友・三谷大紀 ミネルヴァ書房)			
備考			
定期テストは実施しない			

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
教育と社会 (教育の理念・歴史・思想を含む)		講義	樋口 大夢
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	2単位	1年前期	必修(保)・必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の本質・目的の理解に関する科目		毎回の振り返り、確認テスト(40%) ミニレポート(40%) ディスカッションの内容や取り組み(20%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
教育の基礎的理解に関する科目			
[授業の目的・ねらい]			
1. 教育の基本的概念や理念について様々な角度から検討し、理解している。 2. 教育に関する様々な思想や歴史について理解している。 3. 学校教育に関する社会的事項について基礎的な知識を身に付け、それらに関する課題を理解している。 4. 学校と地域の連携と学校安全への対応に関する課題を理解している。			
[授業全体の内容の概要]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の基本的概念や理念について学び、それらを比較しながら、自らの考えを深める。</li> <li>・教育に関する様々な思想や歴史について学び、それぞれの特徴を理解する。</li> <li>・学校教育に関する社会的状況について理解し、そこから生じる課題とそのための対応としての教育政策の動向を理解する。</li> <li>・学校と地域の連携と学校安全への対応に関する事柄を学び、それらに関する課題について自らの考えを深める。</li> <li>・アクティブラーニング型の手法により、自らの意見と他者の意見とを比較しながら、教育への理解を深める。</li> </ul>			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
・教育の基本的概念や理念、思想、歴史、地域連携についての理解を深め、実際の指導に活かせるようになる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	教育とは何か		
2	教育の目的		
3	家族と社会による教育の歴史		
4	教育をめぐる思想		
5	近代教育思想の始まり		
6	近代教育制度の成立と展開		
7	新教育運動の思想と実践		
8	歴史的観点からみる現代社会の教育的課題		
9	学校を巡る近年の状況の変化		
10	子どもの生活の変化と指導上の課題		
11	教育政策の動向		
12	諸外国の教育事情と教育改革の動向		
13	学校と地域の連携と共同の意義・方法・経緯		
14	学校における危機管理と安全		
15	まとめと振り返り		
[使用テキスト・参考文献]			
テキスト：小玉亮子編著『幼児教育』ミネルヴァ書房、2020年。 参考書・参考資料等：授業内で適宜提示する。 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)			
備考			
定期テストは実施しない			

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
子ども家庭福祉		講義	初谷千鶴子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	2単位	1年前期	必修(保)・選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の本質・目的の理解に関する科目		課題レポート(40%) 授業内確認小テスト(60%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
選択科目			
[授業の目的・ねらい]			
<p>子どもの育ちや家庭への支援の充実のために、基本的な姿勢や支援体制を理解し、様々な子育て場面において保育士としての専門性を生かした支援が出来るよう、実践感覚を修得することを目的とする。</p> <p>1.現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。</p> <p>2.子どもの人権擁護について理解する。</p> <p>3.子ども家庭福祉の制度や現状、課題について理解する。</p> <p>4.子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。</p>			
[授業全体の内容の概要]			
<p>子ども家庭福祉について、まず子どもの権利擁護の観点からその現状や実践のありようについて理解する。さらに、子ども家庭福祉の推進方法、保育、教育、療育、医療、保健等多機関連携の必要性和ネットワーク、次世代育成支援について学ぶ。まとめとして、子ども家庭福祉の動向と展望を学習する。</p>			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
子どもの権利を護る視点で取り組む支援や、そのためのネットワークの仕組みと実際を理解する。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	子ども家庭福祉の理念と、子ども・家庭を取り巻く社会を学ぶ。		
2	子どもの権利について考える。		
3	子ども家庭福祉の歴史について学ぶ。(海外の歴史)		
4	子ども家庭福祉の歴史について学ぶ。(日本の歴史)		
5	子ども家庭福祉制度と法律について、児童福祉法を中心に学ぶ。		
6	子ども家庭福祉に関わる機関と施設について学ぶ。(児童相談所のしくみ)		
7	子ども家庭福祉に関わる機関と施設について学ぶ。(児童福祉施設の措置制度と利用契約制度)		
8	子ども家庭福祉に関わる機関と施設について学ぶ。(基準と専門職)		
9	子育て支援と子どもに関する諸問題について学ぶ。(地域の子育て支援サービス)		
10	子育て支援と子どもに関する諸問題について学ぶ。(児童虐待、DV、社会的養護)		
11	子育て支援と子どもに関する諸問題について学ぶ。(障害児の福祉、少年非行)		
12	子育て支援と子どもに関する諸問題について学ぶ。(子どもの貧困対策)		
13	地域における連携・協働とネットワークについて学ぶ。		
14	子どもの権利擁護について、実践場面を想定し考える。授業内確認小テスト。		
15	海外の子育て支援の現状と、今後の子ども家庭福祉の展望を考える。		
[使用テキスト・参考文献]			
<p>子ども家庭福祉(2019)直島正樹・河野清志編著 萌文書林</p> <p>参考書・参考資料等:保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領(2018)</p> <p>西郷泰之・宮島清(2018)ひと目でわかる保育者のための児童家庭福祉データブック2018、中央法規</p>			
備考			
定期テストは実施しない			

実務経験

保育士として保育所、児童相談所での勤務経験、社会福祉士・精神保健福祉士としてのスクールソーシャルワーカーの経験を活かし、子ども家庭福祉分野・社会的養護における現状とその課題、支援のあり方についてより実践的な授業を実施する。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
社会福祉		講義	静間 宏治
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	2単位	1年前期	必修(保)・選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の本質・目的の理解に関する科目		授業内確認小テスト 80% 提出物 20%	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
選択科目			
[授業の目的・ねらい]			
現代社会における社会福祉の意義、その理念や制度と実施体制や歴史を理解し、保護者への関わりや支援を学びつつ社会福祉の今後の課題について考える。			
[授業全体の内容の概要]			
社会福祉制度や相談援助を学ぶと共に、保育士として子どもや保護者に関わる視点や、態度を明らかにしていきたい。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
社会福祉の専門職としての、保育士の役割を認識することを目指す。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	オリエンテーション、社会福祉と人間理解①(ノーマライゼーションの思想)		
2	社会福祉と人間理解②(共生社会と障がい理解の視点)		
3	視覚教材学習(この子らを世の光に)		
4	社会福祉の法律と制度		
5	社会福祉の実施体制と社会福祉施設		
6	社会福祉の専門職と実施機関		
7	社会福祉における相談援助①(意義と機能)		
8	社会福祉における相談援助②(対象と過程、ソーシャルワークの専門性)		
9	社会福祉における相談援助③(方法と技術、利用者理解の視点)		
10	利用者保護の仕組み(成年後見制度と日常生活自立支援事業)		
11	視覚教材学習(他者を援助するとは)		
12	地域福祉の可能性(在宅福祉・地域福祉の推進)		
13	社会福祉の歴史的変遷		
14	少子高齢化社会における子育て支援		
15	福祉の哲学とまとめ		
[使用テキスト・参考文献]			
テキスト:「新・社会福祉原論」～現代社会福祉の視点と社会福祉援助の可能性～(2005)足立叡編 参考文献:保育所保育指針、教育・保育要綱			
備考			
定期テストは実施しない			



授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
社会的養護 I		講義	初谷千鶴子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	2単位	1年後期	必修(保)・選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の本質・目的の理解に関する科目		授業内確認小テスト(40%) レポート(20%) 課題パンフレット(40%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
選択科目			
[授業の目的・ねらい]			
<p>子どもとその家庭における課題の多様化、複雑化に対応するため、理念や制度等の基礎的事項の理解や関係機関との連携、援助の方法を習得し、実践力を身につけることを目的とする。主に以下の5点についての理解を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。</li> <li>2. 子どもの権利擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。</li> <li>3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。</li> <li>4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。</li> <li>5. 社会的養護の現状と課題について理解する。</li> </ol>			
[授業全体の内容の概要]			
<p>本授業では、まず社会的養護とは何か、その意義について理解を深める。次に、子どもの権利擁護としての社会的養護と、家庭への支援のあり方を学ぶために、現代社会の実態を把握する。そして、理念や制度、仕組みを学ぶことにより、子どもの実態に結びつけた自立支援に繋げられるような力を養う。</p>			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
理念や制度、自立支援、権利擁護の仕組みを理解し、社会的養護の保育士としての専門性や倫理観を醸成する。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	社会的養護とは何か、子どもの権利とは何かを理解し、現代社会における課題を学ぶ。(少子化、貧困、虐待 他)		
2	社会的養護のしくみ(施設養護、家庭的養護、家庭養護、関係機関)や関連する法律を学ぶ。		
3	児童相談所のしくみや支援のプロセスを時系列に学び、社会的養護実践と結びつけて考える。		
4	措置制度と措置による施設の種類の支援内容を学ぶ。		
5	利用・契約制度と利用・契約を基本とする施設の種類の支援内容を学ぶ。		
6	日本や海外における子ども・福祉・社会的養護に関する歴史の変遷を学ぶ。		
7	施設養護における各施設の専門職の職務内容について学ぶ。		
8	施設養護における格施設の支援内容を学ぶ。		
9	施設養護におけるソーシャルワークのあり方を学ぶ。		
10	家族再統合に向けた支援プロセスを学ぶ。		
11	里親制度、養子縁組制度について学ぶ。		
12	里親支援事業の具体的な内容を知る。		
13	児童福祉施設の運営管理について学ぶ。(職員配置、スーパービジョン、リスクマネジメント)		
14	保育士の倫理について学ぶ。授業内小テスト。今後の社会的養護の課題について考える。		
15	「自分が社会的養護施設の施設長だったら」をテーマに1ヶ所種別を選び、今まで学んだ内容をもとにパンフレットを作成する		
[使用テキスト・参考文献]			
原田旬哉・杉山宗尚(2018) 社会的養護 I 萌文書林保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領(2018) 新たな社会的養護への挑戦—すべての子どもと歩む未来へ—(2017) 全国児童養護協議会			
備考			
定期テストは実施しない			

実務経験

保育士として保育所、児童相談所での勤務経験、社会福祉士・精神保健福祉士としてのスクールソーシャルワーカーの経験を活かし、子ども家庭福祉分野・社会的養護における現状とその課題、支援のあり方についてより実践的な授業を実施する。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
保育者論		講義	實川慎子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	2単位	1年後期	必修(保)・選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の本質・目的の理解に関する科目		授業態度(30%) 確認小試験および課題(70%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
選択科目			
[授業の目的・ねらい]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者の役割と倫理及び保育士の制度的位置づけを理解する。</li> <li>・保育士の専門性と保育者の連携・協働を理解する。</li> <li>・保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。</li> </ul>			
[授業全体の内容の概要]			
<p>幼稚園や保育所、認定こども園における保育者の役割と倫理、職業の特徴や制度的位置づけについて学ぶ。養護と教育、保育者の資質・能力や知識・技術及び判断について、保育事例を通して考えながら、保育者の専門性について考察する。</p> <p>社会的ニーズに目を向けながら、家庭や地域、専門機関との連携・協働及び学び続けることの必要性について学ぶ。</p> <p>グループによる話し合いでは積極的に参加するとともに、他者の考えや意見に耳を傾け、自分の考えや理解を深めるようにする。</p>			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者の役割と倫理、職業の特徴及び制度的位置づけを理解する。</li> <li>・保育者の専門性として、子どもに応じた保育の内容を理解する。</li> <li>・家庭や地域、専門機関との連携・協働や保育者の専門的成長と研修の必要性を理解する。</li> </ul>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	授業ガイダンス・「保育者になる」ということ(保育者の役割と倫理及び制度的位置づけ)		
2	保育者の一日①保育所(一日のスタート～給食)		
3	保育者の一日②保育所(午睡～一日の終わりに)		
4	幼稚園・認定こども園における保育者の役割と専門性		
5	子どもの思いや育ちを理解する仕事		
6	子どもと一緒に心と体を動かす仕事①遊びを支える5つの役割(養護と教育を含む)		
7	子どもと一緒に心と体を動かす仕事②映像を見て保育者の仕事を考える		
8	豊かな文化や自然との出会いをつなぐ仕事		
9	保護者や家庭と一緒に歩む仕事①在園児の保護者への支援と専門機関との連携・協働		
10	保護者や家庭と一緒に歩む仕事②地域における子育て支援		
11	学び合う保育者①語り合い・学び合うこと(保育士のキャリア形成を含む)		
12	学び合う保育者②園(組織)として学び合う		
13	保育者の専門性って何だろう(保育の計画と省察・評価を含む)		
14	学習内容の確認		
15	保育者論の振り返り・まとめ		
[使用テキスト・参考文献]			
保育者論(汐見稔幸・大豆生田啓友(編) ミネルヴァ書房) 最新保育資料集2020(大豆生田啓友・三谷大紀 ミネルヴァ書房)			
備考			
定期テストは実施しない			

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
教師論		講義	柴田 茂樹
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	2単位	1年後期	選択必修(保)・必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の本質・目的の理解に関する科目		ミニレポート・小テスト 20% グループ課題 20% 授業やグループワークへの参加意欲 60%	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
教育の基礎的理解に関する科目			
[授業の目的・ねらい]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育教諭としてのあり方について、実践現場の事例学習を通じて人間性を育む</li> <li>・ 世界の教育、社会と環境の変容、専門基礎知識を学び、保育者としての判断力を習得する</li> </ul>			
[授業全体の内容の概要]			
<p>「生きる力」を育む上で大切なことは、幼児と保育者との間の肯定的な信頼関係が形成されていることが重要である。「保育者としてどうあるべきか」「幼児とどのように関わるのか」日々研究と実践を積み重ねていくことが保育者の基本となる。本授業では世界の教育、これからの教育、子ども達を取り巻く社会環境の変容に触れながら教育・保育の課題や現状に言及していく。</p> <p>そのような過程を経て、保育者の実践記録及びケーススタディに触れ、各自が目指す保育者像を描く一助としたい。</p>			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育教諭としてのマナー・倫理心得及び保育職の専門性を体系的に理解し自己統制を高める</li> <li>・ 保育教諭として「生きていく目的」の土台を確保する</li> </ul>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	ガイダンス		
2	保育教諭とは① ～保育者としての自己統制～		
3	保育教諭とは② ～教育・保育力を考える～		
4	21世紀の保育者の役割・生きる力とは(映像) ～日本・オランダ・コンゴ民を題材にして～		
5	期待される保育者像 ～知る・伝える・心がける・実行する～		
6	子どもの発達 ～エリクソンの発達段階から考える～		
7	子どもと共に過ごす保育者の生活を基に① ～子どもの育つ生活と共に環境を考える～		
8	子どもと共に過ごす保育者の生活を基に② ～あそびの発達と連続性を考える～		
9	子どもとの関わり① ～子どもを受容することとは～		
10	子どもとの関わり② ～発達年齢に沿った保育者の関わりとは～		
11	グループワーク① 私たちが考える幼稚園・保育園 ～保育者としての自分の役割(デザイン)～		
12	グループワーク② 私たちが考える幼稚園・保育園 ～保育者としての自分の役割(デザイン)～		
13	グループワーク① 私たちが考える幼稚園・保育園 ～保育者としての自分の役割(映像・討論)～		
14	まとめ		
15	伝統的に引き継がれる教師・保育者のあり方(討論総括)		
[使用テキスト・参考文献]			
保育所保育指針(平成2年施行厚生労働省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 幼稚園教育要領(平成29年告示 文部科学省) 教師論 米山弘 玉川大学出版会 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示内閣府、文部科学省、厚生労働省)			
備考			
定期テストは実施しない			

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
保育の心理学		講義	張 愛子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	2単位	1年前期	必修(保)・必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の対象の理解に関する科目		授業内容の理解度(授業内確認小テスト) 50% 提出物 30% 授業態度 20%	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
教育の基礎的理解に関する科目			
[授業の目的・ねらい]			
子どもの発達過程や、学びの過程及びその特性について理解する。			
[授業全体の内容の概要]			
身体・認知・言語・情動の側面から育ちの連続性を見通した子どもの発達理解、環境との相互作用から生じる学びの過程と特性及びその保育実践について講義する。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
発達を捉える視点を学び、子ども理解を深める。養護と教育の一体的展開を支える学びの過程と特性を理解する。環境や他者との関わりの意義を理解し、“生活や遊びを通した学び”を支える保育実践の基本を学ぶ。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	ガイダンス(なぜ保育の心理学を学ぶか)		
2	発達とは、発達観と子ども観		
3	発達を捉える視点を学ぶ(生涯発達の視点、養護と教育の一体性などについて)		
4	社会的情動の発達について学ぶ		
5	身体的機能・運動機能の発達プロセスを理解する		
6	思考・認知の発達について学ぶ		
7	言語の発達について学ぶ		
8	乳幼児期の学びと保育について①学びの理論		
9	乳幼児期の学びと保育について②学びの特性		
10	乳幼児期の学びと保育について③学びを支える保育実践		
11	乳幼児期の学びと保育について④生活や遊びを通した学び		
12	乳幼児期の学びと保育について⑤自ら学ぶ心を育てる保育実践		
13	乳幼児期の学びと保育について⑥環境との相互作用、対人的関わりと保育実践		
14	乳幼児期の学びと保育について⑦育ちの連続性と思春期を見通した保育を考える		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献]			
保育の心理学 本郷一夫・飯島典子(編著) 建帛社 2019.2.15 平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園養育・保育要領<原本>(チャイルド本社)			
備考			
定期テストは実施しない			

実務経験

カウンセラー・心理士等の経験を活かし、子どもたちの幼児期における遊びや学びの経験が就学後の学業や心身の発達にどうつながっていくかについて解説する。  
国際交流活動や外国籍児童生徒に対する支援活動経験を活かし、増加経過をたどる保育・教育現場における多文化共生の課題について考え、より多角的な視点をもつ保育者養成を行う。

		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
子ども理解と援助		演習	張 愛子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1単位	1年後期	必修(保)・選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の対象の理解に関する科目		授業内容の理解度(授業内確認小テスト)50% 提出物30% 授業態度20%	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
選択科目			
[授業の目的・ねらい]			
子どもの発達への気づき、保育者自身への気づきを高め、一人ひとりに寄り添う保育実践が可能になる。			
[授業全体の内容の概要]			
子どもを理解する視点や方法を実際の事例等を通して考えながら、実態に応じた発達援助ができるよう、ディスカッションやロールプレイ等を通して理解を深めていく。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
実態に応じた一人ひとりの心身の発達や学びを把握する意義を理解する。 子どもの体験や学びの過程に関する基本的な考え方を理解し、具体的な援助の方法や態度を身につける。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	ガイダンス(保育における子ども理解の意義)		
2	子ども理解に基づく養護と教育の一体的展開		
3	共感的理解に基づく保育実践		
4	年齢別の発達と保育実践		
5	仲間関係の発達と支援の実際		
6	遊びの発達と支援の実際		
7	自己の発達と支援の実際		
8	親子関係の発達と支援の実際		
9	環境構成と支援の実際		
10	環境移行と支援の実際		
11	子どもを理解する方法①観察・記録・省察・評価		
12	子どもを理解する方法②情報の共有		
13	気になる子どもの理解と援助		
14	発達の連続性と就学への支援		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献]			
子ども理解と援助 高嶋景子・砂上史(編著) ミネルヴァ書房 2019.4.20 平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園養育・保育要領<原本>(チャイルド本社)			
備考			
定期テストは実施しない			
実務経験			

カウンセラー・心理士等の経験を活かし、子どもたちの幼児期における遊びや学びの経験が就学後の学業や心身の発達にどうつながっていくかについて解説する。  
国際交流活動や外国籍児童生徒に対する支援活動経験を活かし、増加経過をたどる保育・教育現場における多文化共生の課題について考え、より多角的な視点をもつ保育者養成を行う。



授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
教育心理学		講義	張 愛子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	2単位	1年後期	選択必修(保)・必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の対象の理解に関する科目		授業内容の理解度(授業内確認小テスト)50% 提出物30% 授業態度20%	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
教育の基礎的理解に関する科目			
[授業の目的・ねらい]			
○幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。			
[授業全体の内容の概要]			
○幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論について講義し、発達の概念及び教育における発達理解の意義について理解する。 ○乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について講義し、その具体的な内容に関する基本知識を身につける。 ○様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解する。 ○主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解する。 ○幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。 ・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的な知識を身につけ、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	授業ガイダンスー発達理論と幼児教育		
2	幼児期の遊びとその援助		
3	幼児期の個性化・社会化の発達とその援助①ー環境移行期と愛着タイプ		
4	幼児期の個性化・社会化の発達とその援助②ー個性化・社会化の発達		
5	幼児期の知的機能の発達とその援助①ー言語の獲得と認知の発達		
6	幼児期の知的機能の発達とその援助②ー記憶能力と論理的思考の発達		
7	児童の適応理解とその支援		
8	児童の知的機能の発達と学習支援①ー児童期の認知の発達と学習理論		
9	児童の知的機能の発達と学習支援②ー学習と教育評価		
10	生徒の適応理解とその支援①ー環境移行期における人間関係、進路決定		
11	生徒の適応理解とその支援②ー問題行動の理解とその援助		
12	生徒の知的機能の発達と学習支援		
13	教師の役割		
14	教師の自己成長		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献]			
教育心理学の基本理解 岸井勇雄・無藤隆・柴崎正行(監修)中澤潤(編著)同文書院 2010.4.1 平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園養育・保育要領<原本>(チャイルド本社)			
備考			
定期テストは実施しない			

実務経験

カウンセラー・心理士等の経験を活かし、子どもたちの幼児期における遊びや学びの経験が就学後の学業や心身の発達にどうつながっていくかについて解説する。  
国際交流活動や外国籍児童生徒に対する支援活動経験を活かし、増加経過をたどる保育・教育現場における多文化共生の課題について考え、より多角的な視点をもつ保育者養成を行う。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
子どもの保健		講義	高橋 麻美
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	2単位	1年前期	必修(保)・選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の対象の理解に関する科目		授業内確認試験(60%) 授業への取り組み・提出物(40%) 以上より、総合的に評価する。	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
選択科目			
[授業の目的・ねらい]			
小児保健に関する基礎的知識を習得することを目的とする。			
[授業全体の内容の概要]			
保育における保健活動の重要性を理解し、子どもに対する包括的な理解や健康、健康問題、養護に関する幅広い理解を獲得することを目指す。講義形式の学習では、学生自身が主体的に考えて学ぶ姿勢を重視し、個々の感受性や価値観、能力、目標に合わせて発展させていく能力を支援する。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)]			
1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	子どもの健康/発育・発達	ガイダンス/保健活動の意義と目標/子どもの身体発育と評価	
2	生理機能の発達と保健	子どもの生理機能の発達と評価	
3	運動機能の発達と保健	子どもの運動機能の発達と評価	
4	精神機能の発達と保健	子どもの精神機能の発達と評価	
5	子どもの食事	子どもの栄養と摂食機能の発達 / 子どもの発達と食事の移行	
6	子どもの生活環境	子どもの発達と生活習慣 / 子どもの発達と生活環境の変化	
7	子どもの精神保健	母子愛着と子ども期の精神保健 / 子ども虐待と地域保健活動	
8	子どもの健康と病気・健康観察	健康の概念と病気の概念/子どもに多い異常症状と養護/健康観察と異常の早期発見	
9	新生児	新生児の特徴と異常、養護	
10	感染症と予防接種	保育で予防すべき感染症と必要な措置/感染経路と感染予防対策予防接種の目的と種類、必要な配慮	
11	乳幼児期の病気①	主な健康障害と養護:呼吸器疾患、消化器疾患、循環器疾患、泌尿器疾患、筋骨格器疾患	
12	乳幼児期の病気②	主な健康障害と養護:アレルギー疾患、免疫疾患、代謝系疾患、内分泌疾患、皮膚疾患	
13	乳幼児期の病気③	主な健康障害と養護:血液疾患、腫瘍、神経疾患、感覚器疾患、精神疾患、発達障害	
14	まとめ	講義の総復習と確認試験	
15	母子保健の現状と行政	現代社会における母子の現状と課題	
[使用テキスト・参考文献]			
高内正子編著:改訂 子どもの保健演習ガイド 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省) 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)			
備考			
定期テストは実施しない			

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
子どもの食と栄養 I		演習	鈴木 一子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1単位	1年前期	必修(保)・選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の対象の理解に関する科目		レポート課題 (20%) 授業態度 (10%) 授業内小試験 (70%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
選択科目			
[授業の目的・ねらい]			
1 健康な生活の基本としての食生活の意義を理解し、子どもの生活・食生活の実態を把握する。 2 食品・栄養に関する基本的知識を習得する。 3 各ライフステージにおける発育・発達、食と栄養の関係について理解する。			
[授業全体の内容の概要]			
1 子どもの心身の健康は、食生活とともにあり、毎日の食事により健康な体も心もつくられていることを学ぶ。近年の社会情勢の変化が、保護者の健康観や健康意識を変え、さまざまな健康問題の発生の引き金になっていることを知り、健全な食生活の確立に向けた家庭への支援が求められていることを理解する。 2 食品・栄養に関する基礎的知識を理解し、日常の食生活を営むためには、どのような食品をどのように摂取すればよいか種々の食品の栄養特性を学ぶ。 3 各ライフステージ(妊娠期、新生時期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、成人期、老年期)における発育・発達、栄養の特性を理解する。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
1 健康な生活の基本としての食生活の意義を理解し子どもの生活・食生活の実態を把握する。 2 食品・栄養に関する基本的知識を習得する。 3 各ライフステージにおける発育・発達、食と栄養の関係について理解する。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	子どもの心身の健康と食生活の意義・子どもの食生活の現状と課題		
2	栄養に関する基本的知識(1) 栄養と栄養素、糖質、脂質		
3	栄養に関する基本的知識(2) たんぱく質、無機質、ビタミン、食物繊維、水分		
4	エネルギー代謝、食事摂取基準		
5	子どもの発育・発達と食生活		
6	調理の基本・献立作成		
7	妊娠期の栄養・食生活		
8	新生児期・乳児期の発育・発達と食生活(乳汁栄養)		
9	離乳期における栄養・食生活(乳児期の栄養・食生活上の問題点)		
10	離乳食の調理実習(離乳食開始生後5、6か月)および調理に関する注意事項の講義		
11	幼児期の心身の発達と食生活(1) からだ・こころの発育・発達、食生活の特徴		
12	幼児期の心身の発達と食生活(2) 栄養・食生活の実際		
13	学童期・思春期の心身の発達と食生活、学校給食		
14	まとめ		
15	学習の振り返り。生涯発達と食生活		
[使用テキスト・参考文献]			
子どもの食と栄養 水野清子他5名編者 診断と治療社。食品成分表 五訂補 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)			
備考			
定期テストは実施しない			

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
教育課程・保育の計画と方法 (教育の方法及び技術を含む)		講義	早坂 恵子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	2単位	1年後期	必修(保)・必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		授業内小試験(70%) 指導計画類の内容(10%) 課題提出物(20%) 授業態度が芳しくない場合は減点とする。	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目。			
[授業の目的・ねらい]			
教育課程及び保育の計画の基本を幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針にそって学び、指導計画の作成と実施のために必要となる方法や技術、その評価を一元的に学ぶことにより、カリキュラム・マネジメントの考え方とその実行のための知識を習得する。			
[授業全体の内容の概要]			
本授業では、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の位置づけと、それらに準拠した教育・保育のあり方を学び、そこで示されている教育課程・保育の計画における意義・目的について習得する。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
カリキュラム・マネジメントの考え方を理解し、指導計画の作成とその評価のための具体的な方法や技術を習得する。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	教育方法の基礎的理論と実践の理解。教育課程・保育の全体的な計画(カリキュラム)とはなにか。		
2	幼児期の特性に応じて育む「見方・考え方」の理解。教育課程・保育の全体的な計画(カリキュラム)の構成要素とは		
3	環境を通し、主体的・対話的な遊びや生活を目指す方法の理解。幼稚園、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針における教育課程・保育の全体的な計画の位置づけ		
4	幼稚園、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針における教育課程・保育の全体的な計画の特徴		
5	教育課程・保育の全体的な計画における理念の歴史の変遷：戦後から1990年代		
6	教育課程・保育の全体的な計画における理念の歴史の変遷：2000年以降		
7	社会に開かれた教育課程・保育の全体的な計画の意義：カリキュラム・マネジメントとは何か		
8	育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的理解。教育・保育における評価と記録：幼稚園、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針における評価と記録		
9	教育・保育における評価と記録：組織としての評価、PDCAサイクル		
10	教育・保育における評価と記録：保育者の自己評価、省察		
11	実際の教育課程・全体的な計画、指導計画、指導要録等と、それぞれの特徴		
12	指導計画作成に向けて：記録、ねらい、環境構成		
13	指導計画作成(指導計画を立てる)		
14	指導計画作成(個人カリキュラム、要録の作成)		
15	情報機器を活用した教材の作成及び提示。まとめ		
[使用テキスト・参考文献]			
岩崎淳子他(2018)教育課程・保育の計画と評価 ―書いて学べる指導計画―萌文書林 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)			
備考			
定期テストは実施しない			

実務経験

40年間の保育所勤務(内26年間、園長として勤務)と、現在の千葉県保育所等巡回支援事業である保育士支援アドバイザー、保育事業者支援コンサルタント等の活動を活かし、現場の実情と課題、指導内容などに触れ、より実践的な授業を行う。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
幼児理解の理論と方法		講義	植松 啓子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	2単位	1年後期	選択必修(保)・必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		レポート・提出課題の内容 グループディスカッションの内容	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目。			
[授業の目的・ねらい]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生は幼児の内面に何が起りどのような思いを抱いているかに目を向け、一人ひとりに応じる指導の具体的な在り方を、環境図、エピソード記録などを通しての授業配列を行う。</li> <li>・ 幼児の発達や学びを捉える視点を理解した上で、幼児教育の基本的な考え方や方法、保育を観察することができるように授業の配列を行う。</li> </ul>			
[授業全体の内容の概要]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児期の教育は幼児一人ひとりの特性に応じながら発達課題に即した指導を行う。そのためには、適切な幼児理解と評価についての考え方、幼児に対する教師の姿勢、記録の取り方保育の中で生かす事を学ぶ</li> <li>・ 幼児理解を促す保育カンファレンス、気になる子への理解と気になる子が属する学級集団への理解について取り上げる。一人ひとりの幼児の内面を理解し信頼関係を築き発達に必要な遊びを、幼児自ら獲得していけるように援助する力を身につけることを授業の中で学ぶ。</li> </ul>			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ DVD教材を活用し、観察記録の分析・考察をすることで、グループ発表や協議の場をつくり、幼児理解の道筋や根拠について習得する。</li> <li>・ アクティブラーニングの視点で授業を展開し、多様の受けとめ方ができる事に気づく。</li> </ul>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	幼稚園教育の充実のための基本的視点や幼児について理解し、保育を実践する視点を学ぶ。		
2	3歳児発達課題を学ぶ：前半・後半の幼児理解DVD教材「一人じめしたいの？それとも思いやり」を視聴し学ぶ。		
3	幼児の喧嘩やつまずきの場面のDVD教材視聴を基に、個と集団との関係について、幼児の内面を捉える視点からグループ協議し分析考察する。		
4	3歳4歳5歳児の実際の保育場面を観察・記録・整理することを通して理論及び方法を学び、保育実践における事例を通し個の課題を把握する。		
5	4歳児の発達課題を学ぶ：4歳児前半幼児理解DVD教材視聴「甘えたいの？それとも・・・」対話的教師の援助を学ぶ。資質・能力としての5歳終了までに育てほしい「10の姿」の意味を学ぶ。		
6	4歳児の発達課題を学ぶ：4歳児後半の幼児理解DVD教材「あかりちゃんありがとう」を視聴し、個の課題の把握や集団とのかかわりを理解し、教師の姿勢を学ぶ。		
7	教師の専門性と幼児理解を深めるための観察と記録の意義について学び、幼児理解を基に保育を構想する。預かり保育と子育て支援をいかに担っていくかを学ぶ。		
8	幼児の発達する姿を捉える事例を通して、幼児理解深める記録の取り方と共に様々記録の方法を学ぶ。		
9	5歳児の発達課題を学ぶ：5歳児前半の幼児理解DVD教材「一緒にやろうよ～伝え合う気持」を視聴し、個の発達と集団における学級経営の観点から対策を検討し、教師の援助を学ぶ。		
10	受容、傾聴、共感的理解のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解する。		
11	適切な子ども理解と評価のために保育者の姿勢・具体的な方法・共に学び合うことを理解する。個と集団の関係を捉える意義や方法を理解する。		
12	5歳児の発達課題を学ぶ：5歳児後半の幼児理解DVD教材「子ども会で人形劇をしよう、お客を呼ぼう」の視聴をとおして考察をする。		
13	幼児理解と保育カンファレンスが密接に関わっていくことを理解し、保育カンファレンスを通して方法、幼児理解を深めるプロセスを学ぶ		
14	登園を嫌がる、気持ちや行動をコントロールしにくい、緊張度が高く自分らしさを表現しにくいなど、気になる行動への対応について事例を通して学ぶ。		
15	保護者の心情と基礎的な対応方法、子育てを取り巻く地域との連携や意義を理解する。		
[使用テキスト・参考文献]			
テキスト：「子ども理解と保育実践」萌文書林 幼児理解に基づいた評価(平成31年3月) 文部科学省 チャイルド本社 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)			
備考			
定期テストは実施しない			

実務経験

平成元年度・10・20・30年度と時代の流れの中で幼稚園教育要領の内容がその都度、変わっていくことが多々あった。しかし、一貫して文科省は変わらないこと、ゆるがないこととしては、子どもたちが環境を通して、遊びを通して、発達に応じて主体的にかかわることで学びにつながっていくことであると記載している。それらを保育者として学んでいく学生に、市立幼稚園教諭、園長及び市幼児教育相談員として38年間の長い勤務と経験の中で、具体的な実践を通して話しながら授業を展開させていく。



授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
健康		演習	早坂恵子・齊藤静枝
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1単位	1年前期	必修(保)・必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		授業内での確認小テスト(70%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分		課題・授業態度(30%)	
領域及び保育内容の指導法に関する科目		出席状況により減点あり	
[授業の目的・ねらい]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児は、生涯にわたる心身の健康の基礎を培う大切な時期である。この重要な時期である乳幼児が健やかに成長する為の保育の基本を理解し、保育者として必要な考え方や姿勢、援助の仕方を身につける。</li> </ul>			
[授業全体の内容の概要]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身の健康に関する領域である「健康」について、保育のねらいや内容を明らかにするとともに乳幼児の心と体の発育・発達の特長や身体成長に関わる問題点などを理解・認識する。</li> <li>・健康な心と体を育てたり、幼児自らが健康で安全な生活を作り出す力を育てたりする援助のあり方や具体的な指導内容を学ぶ。</li> </ul>			
[授業終了時の達成課題(到達目標)]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領及び保育所保育指針等の領域「健康」について、ねらいと内容を理解する。</li> <li>・ねらい及び内容を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。</li> <li>・乳幼児の健康管理に関わる指導上の留意点を理解する。</li> </ul>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に示されている領域「健康」のねらい、内容、全体的な構造を理解する。		
2	健康に関する世界の流れを理解する。		
3	乳幼児期の心身の発達を視野に入れた保育構想を理解する。		
4	子どもを取り巻く環境の現状と健康課題を学ぶ。		
5	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に基づく3歳以上児の領域「健康」について考え方を理解する。		
6	乳幼児期の経験を踏まえた小学校教科等の関連性を理解する。		
7	子どもの健康と基本的な生活習慣の自立の重要性について学ぶ。		
8	保育実践に向け、経験していく内容を習得する。		
9	健康と食育活動の関連性と重要性について学ぶ。		
10	乳幼児理解に基づいた情報機器の活用や教材の作成を学ぶ。		
11	乳幼児理解に基づく具体的な保育構想や指導法、指導案の考え方を学ぶ。		
12	乳幼児の発達に応じた指導案を作成する。(指導案作成)		
13	指導案にそって、模擬保育を実施する。(模擬保育)		
14	領域「健康」における保育者の役割を理解する。		
15	まとめと振り返り		
[使用テキスト・参考文献]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者をめざすあなたへ 子どもと健康 勝木洋子・日坂歩都恵・大和晴行 編著(みらい)</li> <li>・保育所保育指針(平成29年3月告示厚生労働省)</li> <li>・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示内閣府、文部科学省、厚生労働省)</li> </ul>			
備考			
定期テストは実施しない			
実務経験[早坂]			

40年間の保育所勤務(内26年間、園長として勤務)と、現在の千葉県保育所等巡回支援事業である保育士支援アドバイザー、保育事業者支援コンサルタント等の活動を活かし、現場の実情と課題、指導内容などに触れ、より実践的な授業を行う。

実務経験[齋藤]

公立保育所において保育士(正職)として40年間勤務する内、クラス担任30年、園長、副園長として10年の経験を活かして、実践的な授業を実施する。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
環境		演習	早坂恵子・森 大・沖田健次
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1単位	1年前期	必修(保)・必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		授業内小試験(70%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分		提出された製作物(30%)	
領域及び保育内容の指導法に関する科目		授業態度が芳しくない場合は減点とする。	
[授業の目的・ねらい]			
幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に示された領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。			
[授業全体の内容の概要]			
現代の乳幼児を取り巻く環境やその関わりについての専門的事項を踏まえ、領域「環境」のねらいや内容についての理解を深め、乳幼児の発達にそった具体的指導場面を想定した保育の構想や指導方法を身につける。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)]			
乳幼児の発達を理解し、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の展開方法を習得する。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に示されている領域「環境」のねらい、内容、全体的な構造を理解する。		
2	乳幼児の心身の発達とそれを取り巻く環境を視野に入れた保育構想を理解する。		
3	乳幼児理解に基づく心情、認識、思考等を視野に入れた保育構想と、指導上の留意点の理解をする。		
4	保育実践に向け、経験していく内容を理解する。		
5	乳幼児と季節の関わりを通し、保育構想を学ぶ。		
6	乳幼児と自然現象の関わりを通し、保育構想を学ぶ。		
7	乳幼児と身近な動植物の関わりを通し、保育構想を学ぶ。		
8	乳幼児と数・量・図形との関わりを通し、保育構想を学ぶ。		
9	乳幼児理解に基づいた情報機器の活用や教材の作成を学ぶ。		
10	具体的な保育構想、指導法、指導案作成の方法、評価の考え方を学ぶ。		
11	乳幼児の発達に応じた指導案を作成する。(指導案作成)		
12	指導案にそって模擬保育を展開し振り返りを行う。(模擬保育と評価)		
13	乳幼児期の経験を踏まえた小学校教科等の関連性を理解する。		
14	地域と環境の関係性や、現代的課題について理解をする。		
15	振り返りとまとめ		
[使用テキスト・参考文献]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「保育内容 環境 あなたならどうしますか？」萌文書林 編著者 酒井幸子 守 巧</li> <li>・幼稚園教育要領(平成29年3月告示文部科学省)</li> <li>・保育所保育指針(平成29年3月告示厚生労働省)</li> <li>・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)</li> </ul>			
備考			
定期テストは実施しない			

<p>実務経験[早坂]</p>
<p>40年間の保育所勤務(内26年間、園長として勤務)と、現在の千葉県保育所等巡回支援事業である保育士支援アドバイザー、保育事業者支援コンサルタント等の活動を活かし、現場の実情と課題、指導内容などに触れ、より実践的な授業を行う。</p>
<p>実務経験[森]</p>
<p><b>【個展】</b>  「森 大 個展」 「秋山画廊」 東京 2011年12月  「森 大 -maquette-」 「キアズマ珈琲 gallery」 東京 2010年10月  「森 大 展 metabolism」 「GALERIE SOL」 東京 2006年10月  「森 大 個展」 「GALERIA RASEN」 東京 2001年3月</p> <p><b>【グループ展】</b>  「横浜の森美術展6」 「横浜動物の森公園予定地」 横浜 2013年10月  「11 POINT」 「BOX KIOKU」 東京 2010年9月  「ANBD Asia Network Beyond Design 2010」 清州(韓国)・台南(台湾)・天津(中国)・横浜(日本) 2010年7月  「ANBD Asia Network Beyond Design 2009」 天安(韓国)・台南(台湾)・天津(中国)・奈良(日本) 2009年7月  「THE 5th ART PROGRAM OME 2007」 「青梅市西分町公会堂」 東京 2007年11月  「第7回 CONTEMPORARYART TRIAL「CAT展」 「グリーンホール相模大野」 神奈川 2007年9月  「07 POINT」 「BOX KIOKU」 東京 2007年3月  「maquette展」 「GALERIE SOL」 東京 2006年10月  「cm3 空間表現三人展」 「明星大学展示室」 東京 2005年8月  「千崎千恵夫・森 大展」 「GALERIE SOL」 東京 2004年11月  「青梅野外展」 「GALERIA RASEN」 東京 2002年7月  「志向する空間／それぞれの視座 Vol.3」 「GALERIA RASEN」 東京 2001年11月  「WORKS2000」 「文房堂ギャラリー」 東京 2000年2月  「第二回 FUJINO 国際アートシンポジウム'99」 神奈川県藤野町市街地 1999年8月  「三人展」 「Gallery KARIN スペースⅡ」 東京 1998年3月</p> <p><b>【他】</b>  Japan Fashion Week in TOKYO 2008  (株)キャンザーオンズ「ENCADREURS」アートディレクター 「国立代々木競技場第一体育館」 東京 2008年2月  「さいたま新都心駅前パブリックアート」 さいたま新都心駅前広場 恒久設置 2000年5月</p>
<p>実務経験[沖田]</p>
<p>幼保連携型認定こども園(副園長)、幼稚園(園長)としての勤務経験を活かして、幼児教育における「環境」の意味や役割について、保育現場における具体的な事例や活動内容などにふれ、専門的知識と感性豊かな保育者となるためのより実践的な授業を実施する。</p>

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
言葉		演習	柴田 茂樹
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1単位	1年前期	必修(保)・必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		ミニレポート・小テスト (20%) グループ課題 (20%) 授業やグループワークへの参加意欲 (60%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
領域及び保育内容の指導法に関する科目			
[授業の目的・ねらい]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に示された領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。</li> <li>・乳幼児の発達過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な保育場面を想定した保育の構成方法を学ぶ。</li> </ul>			
[授業全体の内容の概要]			
領域「言葉」のねらい及び内容についての理解を深める。乳幼児の文字や話し言葉の育つ道筋の発達過程を踏まえ、主体的・対話的な学びが実現するよう実践現場の事例学習から場面を想定し保育を組み立てる力を身につける。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
子どもが自分の経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話すことを聞こうとする意欲や態度を獲得するための援助・指導方法についての知識と技術を身に付けている。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	ガイダンス「保育における言葉とは」領域「言葉」のねらい及び内容を通して理解する。		
2	ワークショップ「応答・聞くこと」		
3	子どもの言葉の発達過程(話し言葉の育つ道筋・文字の発達の道筋と小学校における書き言葉)		
4	言葉を育む環境構成① 言葉の前のことばについて(子どもとの相互応答的なかかわり)		
5	言葉を育む環境構成② 言葉の誕生(保育実践から)		
6	言葉を育む環境構成③ 言葉が育まれるために(相手に伝える・表現する・受け止める)		
7	人とつながる言葉① 人とのかかわり、社会的ルール、保育文化財を通じて		
8	人とつながる言葉② 「つながりたい」意欲(保育実践を通じて)		
9	人とつながる言葉③ 「言葉への興味」(絵本、紙芝居、お話作り)		
10	言葉の感覚を豊かにする実践(しりとり、言葉集め、数字等の言葉遊び)		
11	言葉で考える、言葉で表現する 遊びから生まれる表現		
12	言葉でのかかわりに配慮を必要とする子ども(相談の実際と対応)		
13	幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「言葉」		
14	まとめ		
15	グループワーク 保育実践や模擬保育に向けて		
[使用テキスト・参考文献]			
戸田 雅美『保育内容 言葉』建帛社 2009年 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示内閣府、文部科学省、厚生労働省)			
備考			
定期テストは実施しない			

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
表現 I		演習	鎌田 千佳
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1単位	1年後期	必修(保)・必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		実技 50% 課題レポート 30% 指導案 20%	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
療育及び保育内容の指導法に関する科目			
[授業の目的・ねらい]			
領域「表現」を理解し、音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通して、感性・創造性を身に付ける。			
[授業全体の内容の概要]			
乳幼児は日常生活や遊びの中で、自由にイメージを膨らませながら感じたことを豊かに表現している。保育者にはそのような乳幼児一人ひとりのあるがままの姿を捉え、その表現に気づき受け止め、共感できる豊かな感性と理解力を身につけることが必要である。本授業では、講義と演習を通して、領域「表現」の基礎的な知識を身につけ、子どもの発達に応じた遊び方や言葉かけ、遊びの展開の実技指導法、音楽表現とその必要性を学び、子どもの表現の萌芽に気づき、その表現に対し、適切に援助できる力を身につける。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
領域「表現」のねらい・内容を理解し、指導案及び活動を構築することができること。乳幼児の発達段階による「表現」の違いを理解し、説明することができること。様々な表現に触れ、自身の感性を豊にするとともに他者の表現を受け入れる評価の観点を持つこと。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	ガイダンス、保育の基本と保育内容「表現」季節や行事、伝統芸能、文化財、伝承遊び等を体験するよう促す。		
2	幼児期の表現の特性やそれを受けとめていく、遊びや生活の中に見られる素朴な表現に関し事例を通して学ぶ。		
3	表現の多様性について学ぶ。偏在する表現のあり方、過程について学生自身の体験を通して話し合い分析する。		
4	教育要領領域「表現」ねらい3つと「内容」8つの理解し事例を通して学ぶ。表現を味わうことの重要性。		
5	領域が相互に関わる関係性を学ぶ。美しいもの、優れたものに心動かすことを共有しながら表現することを学ぶ。		
6	「幼児期の音楽表現について」幼児期に求められる音楽表現について学ぶ。		
7	歌って遊ぼう①発達経験を土台にうた・リズム遊び等についての基礎知識を学び、活動のねらいを理解する。		
8	歌って遊ぼう②ねらいに沿った活動の体験をし、指導上の留意点を理解する。		
9	「現場における音楽表現について」指導案及び具体的指導場面の事例を通して学びを深める。		
10	音で遊ぼう①幼児の興味関心を引き出す指導方法を構想する。		
11	音で遊ぼう②幼児の思考・動きから想定する表現活動の展開を構想し、評価の考え方を学ぶ。		
12	総合表現としての劇遊び①指導現場での取り組み方について学び、指導案を作成する。(ICT活用)		
13	総合表現としての劇遊び②「うた(言葉)」「動き」を中心に幼児の表現活動を体験し指導法を身に付ける。		
14	総合表現としての劇遊び③模擬保育を通して幼児の表現活動を体験し指導法を身に付ける。		
15	総合表現としての劇遊び④グループ発表(模擬保育)及び活動の振り返り。(ディスカッション形式)		
[使用テキスト・参考文献]			
日本赤ちゃん学会監修 小西行郎・志村洋子・今川恭子・坂井康子編著 「乳幼児の音楽表現」中央法規 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)			
備考			
定期テストは実施しない			

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
保育内容の理解と方法 (健康)		演習	早坂恵子・齊藤静枝
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1単位	1年後期	必修(保)・選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		授業内での確認小テスト(70%) 課題・授業態度(30%) 出席状況により減点あり	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
選択科目			
[授業の目的・ねらい]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された領域「健康」のねらい及び内容について、幼児の発達に即した主体的・対話的な学びができるよう具体的指導場面を想定した保育の構成を身につける。</li> </ul>			
[授業全体の内容の概要]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者として必要な領域「健康」のねらい、内容を学ぶ。乳幼児の健康な心身を育み、自ら健康で安全な生活を営む力を養うために、乳幼児期からの健康体力作りの習得に努め、より実践的な学びとして、乳幼児の運動遊びの計画・実践・改善する力を身につける。</li> </ul>			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期の心身の発育発達の特徴や問題点を理解する。</li> <li>・保育者として必要な身体活動能力を整え、安全かつ健康で楽しみながら子どもたちの心身の成長を促せるような運動遊びに即した環境構成、援助のあり方を理解する。</li> </ul>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	第1回：幼稚園教育要領、保育所保育指針に基づく領域「健康」のねらい及び内容の理解。		
2	第2回：子どもの運動遊びにおける現状と課題を理解する。		
3	第3回：乳幼児期における身体的な発達、運動面の発達の特徴。		
4	第4回：運動遊びの重要性と保育者の役割について学ぶ。		
5	第5回：子どもの群れ遊びとその重要性を学ぶ。		
6	第6回：乳幼児期の多様な運動から育まれる子どもの能力と協応性。		
7	第7回：運動遊びにおける特別な支援を要する子どもへの援助を学ぶ。		
8	第8回：運動遊びの指導計画と評価。(指導計画の作成)		
9	第9回：運動遊びの指導計画の実践と評価。		
10	第10回：乳幼児の動きを引き出す環境と必要な遊具、その役割。		
11	第11回：乳幼児理解に基づく、自然に対する興味・関心への理解。		
12	第12回：乳幼児期に起こりやすい怪我の特徴と、安全配慮への理解と指導法。		
13	第13回：健康的な生活を送るために必要な、病気や予防の基礎知識。		
14	第14回：減災と防災について考える。		
15	第15回：まとめと振り返り		
[使用テキスト・参考文献]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者をめざすあなたへ 子どもと健康 勝木洋子・日坂歩都恵・大和晴行 編著(みらい)</li> <li>・保育所保育指針(平成29年3月告示厚生労働省)</li> <li>・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示内閣府、文部科学省、厚生労働省)</li> </ul>			
備考			
定期テストは実施しない			
実務経験[早坂]			

40年間の保育所勤務(内26年間、園長として勤務)と、現在の千葉県保育所等巡回支援事業である保育士支援アドバイザー、保育事業者支援コンサルタント等の活動を活かし、現場の実情と課題、指導内容などに触れ、より実践的な授業を行う。

実務経験[齋藤]

公立保育所において保育士(正職)として40年間勤務する内、クラス担任30年、園長、副園長として10年の経験を活かして、実践的な授業を実施する。



授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
保育内容の理解と方法 (環境)		演習	早坂恵子・森 大・沖田健次
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1単位	1年後期	必修(保)・選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		学生に対する評価：授業内小試験(70%) 提出された製作物(30%) 授業態度が芳しくない場合は減点とする。	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
選択科目			
[授業の目的・ねらい]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの「環境にかかわる力」を育てるうえで、子どもがどのように環境にかかわり、何が育っていくか理解する。</li> <li>・指針・要領の領域「環境」を「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわりそれらを生活に取り入れていこうとする力を養う」という視点から具体的な子どもの育ちをとらえる。</li> <li>・子どもが自らの興味や関心、能力に応じて環境に関わることで、子どもの自主性、主体性が育つ事を学ぶ。</li> </ul>			
[授業全体の内容の概要]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然に触れ、自然の美しさや不思議さに気づかせるとともに季節の変化や自然力に気づかせていくことを学ぶ。</li> <li>・身近な動植物にふれ、生命のはかなさに気づきいたりや慈しみの心を養うことを学ぶ。</li> <li>・身近な遊具や伝統玩具に興味を持ち、友だちと一緒に考えたり工夫したりする中で主体性と対話を楽しむことを学ぶ</li> <li>・日常生活の中で簡単な図形や数量、また標識や文字など物事の本質や原理、法則性に心をひきつけられていく事を学ぶ。</li> <li>・生活に関係の深い情報や施設などに関心を持つことで、いろいろな行事を通じて地域・行事にかかわる力を育てることで親しみを持つことを学ぶ</li> </ul>			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての環境を、保育者が意図的に構成する園内環境と園外環境も含めて環境として捉えることを理解する。</li> </ul>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	第1回：領域「健康」のねらい、内容、内容の取り扱いについての理解		
2	第2回：現代社会の乳幼児を取り巻く環境と課題		
3	第3回：乳幼児期の発達における環境との関わり		
4	第4回：乳幼児期の物理的数量や図形との関わり		
5	第5回：乳幼児期の自然との関わり(身近な自然物や事象に関心を持ち、取り入れて遊ぶ)		
6	第6回：乳幼児期の自然との関わり(身近な動植物に親しみ、生命の十とさ、いたわり大切にする)		
7	第7回：乳幼児の日常生活のなかで、簡単な標識や文字との関わり理解		
8	第8回：乳幼児の情報や施設との関わり理解		
9	第9回：乳幼児における日本の伝統文化や行事等の取り入れ方		
10	第10回：伝統文化や行事に使うものをグループで話し合って作る。		
11	第11回：科学的な遊びや身近な自然物を使った遊びの取り入れ方		
12	第12回：グループで話し合い、乳幼児の発達にそった科学的な創作玩具を作る。		
13	第13回：乳幼児期の経験を踏まえた小学校教科等の関連性を理解する。		
14	第14回：乳幼児が、環境を通しどのように変容していくのかを学ぶ。		
15	第15回：振り返りとまとめ		
[使用テキスト・参考文献]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「保育内容 環境 あなたならどうしますか？」萌文書林 編著者 酒井幸子 守 巧</li> <li>・幼稚園教育要領(平成29年3月告示文部科学省)</li> <li>・保育所保育指針(平成29年3月告示厚生労働省)</li> <li>・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)</li> </ul>			
備考			
定期テストは実施しない			

実務経験[早坂]

40年間の保育所勤務(内26年間、園長として勤務)と、現在の千葉県保育所等巡回支援事業である保育士支援アドバイザー、保育事業者支援コンサルタント等の活動を活かし、現場の実情と課題、指導内容などに触れ、より実践的な授業を行う。

実務経験[森]

【個展】

「森 大 個展」 「秋山画廊」 東京 2011年12月  
 「森 大 -maquette-」 「キアズマ珈琲 gallery」 東京 2010年10月  
 「森 大 展 metabolism」 「GALERIE SOL」 東京 2006年10月  
 「森 大 個展」 「GALERIA RASEN」 東京 2001年3月

【グループ展】

「横浜の森美術展6」 「横浜動物の森公園予定地」 横浜 2013年10月  
 「11 POINT」 「BOX KIOKU」 東京 2010年9月  
 「ANBD Asia Network Beyond Design 2010」 清州(韓国)・台南(台湾)・天津(中国)・横浜(日本)  
 2010年7月  
 「ANBD Asia Network Beyond Design 2009」 天安(韓国)・台南(台湾)・天津(中国)・奈良(日本)  
 2009年7月  
 「THE 5th ART PROGRAM OME 2007」 「青梅市西分町公会堂」 東京 2007年11月  
 「第7回 CONTEMPORARYART TRIAL「CAT展」 「グリーンホール相模大野」 神奈川 2007年9月  
 「07 POINT」 「BOX KIOKU」 東京 2007年3月  
 「maquette展」 「GALERIE SOL」 東京 2006年10月  
 「cm3 空間表現三人展」 「明星大学展示室」 東京 2005年8月  
 「千崎千恵夫・森 大展」 「GALERIE SOL」 東京 2004年11月  
 「青梅野外展」 「GALERIA RASEN」 東京 2002年7月  
 「志向する空間／それぞれの視座 Vol.3」 「GALERIA RASEN」 東京 2001年11月  
 「WORKS2000」 「文房堂ギャラリー」 東京 2000年2月  
 「第二回 FUJINO 国際アートシンポジウム'99」 神奈川県藤野町市街地 1999年8月  
 「三人展」 「Gallery KARIN スペースⅡ」 東京 1998年3月

【他】

Japan Fashion Week in TOKYO 2008  
 (株)キャンザーオンズ「ENCADREURS」アートディレクター 「国立代々木競技場第一体育館」 東京  
 2008年2月  
 「さいたま新都心駅前パブリックアート」 さいたま新都心駅前広場 恒久設置 2000年5月

実務経験[沖田]

幼保連携型認定こども園(副園長)、幼稚園(園長)としての勤務経験を活かして、幼児教育における「環境」の意味や役割について、保育現場における具体的な事例や活動内容などにふれ、専門的知識と感性豊かな保育者となるためのより実践的な授業を実施する。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
保育内容の理解と方法 (言葉)		演習	柴田 茂樹
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1単位	1年後期	必修(保)・選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		授業参加への積極性・発表(50%) ミニレポート(20%) 作品(30%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
選択科目			
[授業の目的・ねらい]			
領域「言葉」のねらいと内容や、子どもの言葉の発達過程について理解を深める。子どもたちが自分の経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話すことを聞こうとする意欲や態度を身に付けるための援助・保育方法を知り、獲得する。言葉を豊かに育てる児童文化財・遊びの知識を獲得し、保育環境をデザインする力を獲得する。			
[授業全体の内容の概要]			
領域「言葉」の目標を達成するために、実際の保育現場における事例を通じた多角的な視点からの知識を獲得する。また言葉に関する教材を活用し、子どもたちの言葉がどのように発達するのかまたどのように保育で取り入れるのか具体的にイメージしながら能力を獲得していく。全体を通してグループワーク、ディスカッション、制作、発表を取り入れる。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
子どもの言葉の発達過程について説明できる。 子どもの言葉の発達を促す保育方法を獲得する。 児童文化財・遊びを活用し、子どもの言葉を豊かに育てる保育環境をデザインできる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
コマ数			
1	領域「言葉」子どものことばと育ち		
2	ことばはどのように育つか (ことばの発達)		
3	子どものことばと保育者 (子ども理解 遊び、活動の中での関わり)		
4	児童文化財の種類や歴史、保育への取り入れ方と環境設定①		
5	児童文化財の種類や歴史、保育への取り入れ方と環境設定②		
6	絵と言葉、お話の世界 感性を豊かにする保育実践①(絵本の役割と選び方)		
7	絵と言葉、お話の世界 感性を豊かにする保育実践②(絵本の読み聞かせと保育への取り入れ方)		
8	絵と言葉、お話の世界 感性を豊かにする保育実践③(素話・ペープサート・パネルシアター)		
9	絵と言葉、お話の世界 感性を豊かにする保育実践④(素話・お話作り・劇遊び)		
10	絵と言葉、お話の世界 感性を豊かにする保育実践⑤(グループワーク 制作)		
11	絵と言葉、お話の世界 感性を豊かにする保育実践⑥(グループワーク 発表)		
12	ペープサート・パネルシアター・お話作り・劇遊び(手順・仕掛け作り・演じ方について)		
13	ペープサート・パネルシアター・お話作り・劇遊び(発表)		
14	まとめ		
15	～ことば表現～ごっこの世界から劇遊びの実際(保育の事例から)		
[使用テキスト・参考文献]			
秋田喜代美・野口隆子編著 『保育内容 言葉』光生館、2018年 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)			
備考			
定期テストは実施しない			

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
乳児保育 I		講義	齊藤 静枝
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	2単位	1年前期	必修(保)・選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		授業内での確認小テスト(60%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分		課題(20%)	
選択科目		レポート(20%)	
[授業の目的・ねらい]			
乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割や、保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制や乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域との関係機関との連携について理解する。			
[授業全体の内容の概要]			
乳児保育の意義や目的を踏まえ、保育所や乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状を学びながら、3歳未満児の発育・発達を理解する。3歳未満児の保育は遊びや生活の具体的場面の連続であり、その一つ一つに様々な発達の意味が複合的に含まれている。保育士等の役割は、毎日の活動の一つ一つがよりよいものとなるよう、環境を整え、必要な援助を行うことである。乳児保育の基本的な概念や実践方法を広く学びながら職員間の連携・協働及び保護者や関係機関との連携についても理解を深める。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割や、保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制や乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域との関係機関との連携について理解する。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	乳児保育の意義・目的と歴史の変遷を学ぶ。		
2	「乳児保育」とは何か、乳児保育の内容、役割、機能を理解する。		
3	保育所における乳児保育の一日を学び3歳未満児がどのように生活しているのかを理解する。		
4	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題について学ぶ。		
5	乳児を取り巻く保育の現状と様々な保育施設の保育と保育の一日を学ぶ。		
6	乳児の発達と保育内容、保育士等の援助を学ぶ。		
7	3歳未満児の発育・発達の様子を学ぶ。		
8	3歳未満児の発育・発達の様子とそれに関わる保育士等の援助や配慮を学ぶ。		
9	3歳未満児の基本的な生活習慣の獲得と保育士等の援助を学ぶ。		
10	3歳未満児の対人関係の発達とそれに関わる保育士等の援助や配慮を学ぶ。		
11	3歳未満児の生活と環境について学ぶ。		
12	3歳未満児の遊びと環境について学ぶ。		
13	乳児保育における計画・記録・評価とその意義について学ぶ。		
14	乳児保育における保育者間の連携や協働・保護者と地域との連携や協働について学ぶ。		
15	振り返りとまとめ		
[使用テキスト・参考文献]			
乳児保育の基本 阿部和子 編著 (萌文書林) 保育所保育指針(平成29年3月告示厚生労働省) 0歳～6歳子どもの発達と保育の本(ひかりのくに)			
備考			
定期テストは実施しない			

実務経験

公立保育所において保育士(正職)として40年間勤務する内、クラス担任30年、園長、副園長として10年の経験を活かして、実践的な授業を実施する。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
乳児保育Ⅱ		演習	齊藤 静枝
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1単位	1年後期	必修(保)・選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		授業内での確認小テスト(60%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分		課題(10%)	
選択科目		グループ活動への参加状況(20%)	
レポート(10%)			
[授業の目的・ねらい]			
<p>3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。                      養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。                      乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。                      上記を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。</p>			
[授業全体の内容の概要]			
<p>「乳児保育Ⅰ」の学びを踏まえ、3歳未満児の発育・発達の理解を深め、それに関わる保育士の援助や配慮、発達を見据えた環境づくり等を学ぶ                      3歳未満児の生活・遊びの中で、養護及び教育が一体となった保育実践がどのように行われているかを学ぶ。                      乳児保育と保育の計画(乳児期からの見通しをもった全体的な計画の作成や長期、短期の指導計画、個別計画等を学ぶ。</p>			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
<p>3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた保育士の援助や関わり、環境構成などの理解を深める。                      養護及び教育が一体となった保育実践を具体的に理解する。                      乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	乳児保育の基本を学ぶ(子どもと保育士等との関係の重要性)		
2	子どもの主体性の尊重と自己の育ちについて学ぶ。		
3	発達過程に沿った対応の基本を学ぶ。		
4	一人ひとりの子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わりについて学ぶ。		
5	乳児保育における家庭との連携について学ぶ。		
6	集団生活における一日流れと配慮を学ぶ。		
7	子どもの生活や遊びを支える環境構成について学ぶ。		
8	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための環境を学ぶ。		
9	0歳児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際について学ぶ。		
10	1, 2歳児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際について学ぶ。		
11	環境の変化や移行に対する配慮等を学ぶ。		
12	乳児のための指導計画作成の視点について学ぶ。		
13	長期的な指導計画と短期的な指導計画について学ぶ。		
14	個別的な指導計画と集団の指導計画について学ぶ。		
15	振り返りとまとめ		
[使用テキスト・参考文献]			
<p>乳児保育の基本 阿部和子 編著 (萌文書林)                      参考書・参考資料等 保育所保育指針                      0歳～6歳子どもの発達と保育の本 学研 河原紀子監修・執筆</p>			
備考			

定期テストは実施しない

実務経験

公立保育所において保育士(正職)として40年間勤務する内、クラス担任30年、園長、副園長として10年の経験を活かして、実践的な授業を実施する。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
子どもの健康と安全		演習	高橋 麻美
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1単位	1年後期	必修(保)・選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		確認試験(60%) 授業への取り組み・提出物(40%) 以上を総合的に評価する。	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
選択科目			
[授業の目的・ねらい]			
「子どもの保健」で習得した基礎的知識を基に、実践を通して保育者としての態度・技能を身につけることを目的とする。			
[授業全体の内容の概要]			
保育における保健活動の概要を理解し、子どもの健康の保持増進および健康問題への対応、感染対策、環境衛生、安全管理に関する幅広い知識と技能を獲得することを目指す。グループワークや演習形式を取り入れた学習では、学生同士が相互に協働する姿勢を重視し、共通の課題に向けて取り組む中で、個々の感受性や価値観、能力を共有し、共に発展させていく能力を支援する。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)]			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。</li> <li>2. 保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。</li> <li>3. 子どもの体調不良・感染症等に対する適切な対応について、具体的に理解する。</li> <li>4. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。</li> <li>5. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。</li> </ol>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	子どもの権利と保健の意義	保育における保健活動の実際	
2	子どもの健康と母子保健	保育における連携：母子保健と地域保健	
3	乳幼児の養護	乳幼児に必要な配慮、健康問題をもつ子どもに必要な配慮	
4	乳幼児の身体計測	乳幼児の発育評価と身体計測	
5	乳幼児の生理機能の測定	乳幼児の健康観察と生理機能測定	
6	乳幼児の精神・運動機能の発達評価1	乳幼児の運動機能の発達と評価	
7	乳幼児の精神・運動機能の発達評価2	乳幼児の精神機能の発達と評価	
8	乳幼児の歯の健康	乳幼児の歯の健康に必要な援助	
9	乳幼児の身体の清潔	乳幼児の身体の清潔に必要な援助	
10	乳幼児の異常症状と手当て	乳幼児の主な健康障害と必要な手当て	
11	乳幼児の事故と応急手当て	乳幼児の事故と安全対策、災害対策、応急手当て	
12	心肺蘇生	乳幼児の心肺蘇生法	
13	環境衛生と感染対策	乳幼児の健康と環境衛生、感染対策	
14	まとめ	講義の総復習と確認試験	
15	集団保育と保健	集団保育における保健活動の計画と評価	
[使用テキスト・参考文献]			
高内正子 編著(2013)：子どもの保健演習ガイド，建帛社、鴨下重彦 監修(2002)：こどもの病気の地図帳，講談社、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針、保育所におけるアレルギー対応ガイドライン(2019)：厚生労働省、2018年度改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン(2018)厚生労働省、教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン(2016)：内閣府・文部科学省・厚生労働省			
備考			
定期テストは実施しない			



授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
教育実習		実習	植松 啓子・沖田 健次
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
実習20日	5単位	1年次・2年次	必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
その他		実習園の評価点・実習態度・指導案・日誌等を(70%)実習に関する各種提出物(20%)事前・事後指導の学習参加態度(10%)を総合して評価する。うち60%以上を合格とし、実習を全うできない場合は単位認定しない。	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
教育実践に関する科目			
[授業の目的・ねらい]			
<p>教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。そこで、一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。また、教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することで、教員免許取得までにさらに修得することが必要な知識や技能等についての理解をさらに深めていく。</p>			
[授業全体の内容の概要]			
<p>幼稚園教育の目的、意義さらに幼稚園教諭の役割を実際の幼稚園現場の体験から学び、幼児期にふさわしい保育の展開がいかなるものであるのかを理解する。1年次の教育実習指導Ⅰにて学習する観察の観点・指導計画の立案・保育実践方法をもとに、1年次の附属幼稚園での観察・参加実習(6日間)、2年次の参加・部分・責任実習(14日間)を通して、幼稚園教育の内容の理解を深め、保育に必要な基礎的技術(話法・保育形態・保育展開・環境構成など)を実地に即して身に付けることで、幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することなど、習得すべき知識や技能等についての向上を図る。</p>			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
<p>教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等についての向上を図る。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
<p><b>【1年次：通年】</b>          附属こども園における観察・参加実習(6日間)          実習①：附属こども園にて観察実習(幼稚園の生活と保育の流れを知る。)          実習②：附属こども園にて観察実習(子どもの発達段階と保育者の役割を知る。)          実習③：附属こども園にて観察・参加実習(表現活動の実践)          実習④⑤⑥：附属こども園にて観察・参加・部分実習(保育活動の計画及びその実践)  <b>※1年次の教育実習(6日間)の事前・事後指導は教育実習指導Ⅰ(1年次通年)にて行う。</b></p> <p><b>【2年次：前期】</b>          幼稚園及び幼保連携型認定こども園における観察・参加・部分・責任実習(14日間)          実習⑦～⑩：実習園における保育の実際(観察・参加・部分・責任実習)  <b>※2年次の教育実習(14日間)の事前・事後指導は教育実習指導Ⅱ(2年次前期)にて行う。</b></p>			
[使用テキスト・参考文献]			
<p>山本淳子編、田中亨胤監修『実習の記録と指導案』ひかりのくに          文部科学省『指導計画の作成と保育の展開』フレーベル館          文部科学省『幼稚園教育要領解説』          その他、授業内にて適宜、資料等配布する。</p>			
備考			
<p>定期テストは実施しない          教育実習には事前事後指導を含む(1年次・教育実習指導Ⅰ)(2年次・教育実習指導Ⅱ)</p>			
実務経験[植松]			

平成元年度・10・20・30年度と時代の流れの中で幼稚園教育要領の内容がその都度、変わっていくことが多々あった。しかし、一貫して文科省は変わらないこと、ゆるがないこととしては、子どもたちが環境を通して、遊びを通して、発達に応じて主体的にかかわることで学びにつながっていくことであると記載している。それらを保育者として学んでいく学生に、市立幼稚園教諭、園長及び市幼児教育相談員として38年間の長い勤務と経験の中で、具体的な実践を通して話しながら授業を展開させていく。

実務経験[沖田]

幼保連携型認定こども園(副園長)、幼稚園(園長)としての勤務経験を活かして、幼児教育の目的と子どもの実態を捉えた保育日誌の作成、子ども達の能動的な活動の展開を促す指導案の作成、そして、教育実習に臨む目的とその心構えについて指導する。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
教育実習指導 I		演習	植松 啓子・沖田 健次
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
26回	教育実習に含む	1年次・2年次	必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
その他		実習記録簿の内容(70%)実習に関する各種提出物(20%)、学習参加の態度(10%)を総合して評価する。うち60%以上を合格とし、実習が全うできない場合は単位認定しない。	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
[授業の目的・ねらい]			
<p>教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。そこで、事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高めることに重点を置き、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに修得すべき知識や技能等について理解することを促していくとともに、この経験を2年次の教育実習へと活かしていくことが、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等への理解を深めていくことにつながる。</p>			
[授業全体の内容の概要]			
<p>幼稚園教育の目的、意義さらに幼稚園教諭の役割を実際の幼稚園現場の体験から学び、幼児期にふさわしい保育の展開がいかなるものであるのかを理解することを通して、教育実習の意義を理解する。教育実習指導にて学習する観察の観点・指導計画の立案・保育実践方法をもとに附属こども園での観察実習、参加実習(6日間)のなかで、幼児に対して適切な観察を行う。指導教員等の実施する授業について視点を持って観察し、事実即して記録するための方法について理解する。教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加するとともに、学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことで、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。</p>			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
<p>これまでに学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を身に付け、保育を実践するために必要な課題を認識し、教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することで、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等についての理解を深めていく。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
<p>授業計画 13回×2(前期:13回・後期:13回)計26回を通年にて実施する</p> <p>※1 本科目の中で1年次教育実習の事前・事後指導を行う</p> <p>・・・・＜前期:教育実習指導I＞・・・・</p> <p>第1回:教育実習における意義と目的 ・附属園実習グループ分け</p> <p>第2回:幼稚園の実習に向けて・「幼稚園って何?」・自己紹介の名札制作</p> <p>第3回:観察実習①の事前指導 ・観察実習園の概要・観察、記録について※1</p> <p>第4回:観察実習①の事後指導・実習の振り返りとグループ発表※1</p> <p>第5回:幼稚園における保育の概要(一日の流れ・好きな遊び・学級全体の遊び・生活習慣等)</p> <p>第6回:教育実習における事務手続き(実習園への申し込み確認・書類作成等)</p> <p>第7回:歳児別の発達課題①</p> <p>第8回:歳児別の発達課題②</p> <p>第9回:教育実習の日誌の記録方法①</p> <p>第10回:教育実習②(観察)の事前指導 ・教育実習の観察の観点※1</p> <p>第11回:教育実習②(観察)の事後指導 ・実習の振り返りとグループ発表※1</p> <p>第12回:教材研究 ・動くおもちゃ制作</p> <p>第13回:幼稚園教育要領の確認と学習課題の整理</p>			

教育実習指導 I の続き

<p>・・・&lt;後 期：教育実習指導 I &gt;・・・</p> <p>第14回：幼稚園の組織と教育計画</p> <p>第15回：幼稚園における保育者の職務と環境構成</p> <p>第16回：幼稚園教育要領の確認と学習課題の整理</p> <p>第17回：指導計画の立案の実際・歌・手遊び・ゲーム・製作等の計画（教材研究）</p> <p>第18回：歳児別発達課題に基づく活動の内容</p> <p>第19回：歳児別発達課題に基づく活動の展開</p> <p>第20回：<u>教育実習③（観察・参加）事前指導・活動の内容及び使用教材等の確認</u>※<sup>1</sup></p> <p>第21回：<u>教育実習③（観察・参加）事前指導・実習の振り返り</u>※<sup>1</sup></p> <p style="padding-left: 2em;">教育実習④⑤⑥に向けた活動別（参加・部分実習）の指導計画の立案①（グループごと）</p> <p>第22回：教育実習④⑤⑥に向けた活動別（参加・部分実習）の指導計画の立案②（グループごと）</p> <p>第23回：附属幼稚園参加・部分実習の準備②（指導計画案の作成）</p> <p>第24回：<u>教育実習④⑤⑥（観察・参加）の事前指導</u>※<sup>1</sup></p> <p style="padding-left: 2em;">・保育活動の内容及び使用教材等の確認</p> <p>第25回：<u>教育実習④⑤⑥（観察・参加）の事後指導</u>※<sup>1</sup></p> <p style="padding-left: 2em;">・実習を終えての振り返りと自己評価</p> <p>第26回：2年次の教育実習にむけての自己の課題の明確化と準備</p>
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>山本淳子編、田中亨胤監修『実習の記録と指導案』ひかりのくに 文部科学省『指導計画の作成と保育の展開』フレーベル館 文部科学省『幼稚園教育要領解説』 その他、授業内にて適宜、資料等を配布する。</p>
<p>備考</p> <p>定期テストは実施しない 教育実習5単位の中の事前事後指導</p>
<p>実務経験[植松]</p> <p>平成元年度・10・20・30年度と時代の流れの中で幼稚園教育要領の内容がその都度、変わっていくことが多々あった。しかし、一貫して文科省は変わらないこと、ゆるがないこととしては、子どもたちが環境を通して、遊びを通して、発達に応じて主体的にかかわることで学びにつながっていくことであると記載している。それらを保育者として学んでいく学生に、市立幼稚園教諭、園長及び市幼児教育相談員として38年間の長い勤務と経験の中で、具体的な実践を通して話しながら授業を展開させていく。</p>
<p>実務経験[沖田]</p> <p>幼保連携型認定こども園（副園長）、幼稚園（園長）としての勤務経験を活かして、幼児教育の目的と子どもの実態を捉えた保育日誌の作成、子ども達の能動的な活動の展開を促す指導案の作成、そして、教育実習に臨む目的とその心構えについて指導する。</p>

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
情報処理		講義	阿部 徹
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	2単位	1年前期	必修(保)・必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
教養科目		授業課題(40%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分		レポート(30%)	
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		受講態度(30%)	
[授業の目的・ねらい]			
パソコンに代表される幼稚園等の現場で使用される機器を用いて、文書作成やデータ処理など伝達・発信方法の基礎を学ぶ。			
[授業全体の内容の概要]			
Word・Excel・PowerPoint等のパソコンを用いたソフトウェアが現場においてどのような場面で使用されているかを学びながら、その基礎的な使用・作成方法が使われている文書などを通じて学ぶ。また、パソコンを道具として活用して、伴奏や電子紙芝居などの活用方法についても学習する。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
幼稚園等の現場においてパソコン等の機器を使用するにあたっての基本的な態度と知識を身に着ける。知識については個人情報の取り扱いや著作権についての注意すべきことも学ぶ。個人として文書を作成することと、現場で職員の一人として仕事として作成することの違いを理解する。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	ガイダンス(基礎知識、文字入力の方法、ファイルの作成・保存、どこでもキャビネットについて)		
2	幼稚園等の現場で使用されている文書の種類(Word・Excel・PowerPointの概要と音楽ソフトの利用)		
3	Word1 行事等の案内文書、連絡・依頼文書(文書入力・編集・体裁・保存)		
4	Word2 園だより・クラスだより(表や素材の挿入・ワードアートやオンライン画像の挿入)		
5	Word3 園だより・クラスだより(表のレイアウト変更・表の書式設定)		
6	Excel1 園児データの整理(入力と編集方法・表の行や列の操作・表の書式設定)		
7	Excel2 園児データの整理(グラフ機能の確認・グラフの作成、簡単な数式・関数)		
8	Excel3 名簿・住所録(利用目的とデータの項目選定・ふりがな挿入の簡単なマクロ)		
9	Excel4 名簿と園児データの活用及び個人情報保護について(Wordとの連携による差込印刷方法)		
10	MuseScore 幼稚園等で扱う音楽(MuseScoreで使用する曲の楽譜作成と演奏)		
11	PowerPoint1 幼稚園等での利用場面と目的(PowerPointによるプレゼンと電子紙芝居)		
12	PowerPoint2 幼稚園等での利用場面と目的(PowerPointのアニメーションと電子紙芝居・著作権)		
13	PowerPoint3 幼稚園等での利用場面と目的(PowerPointを利用した電子紙芝居)		
14	PowerPoint4 電子紙芝居発表会		
15	まとめ 幼稚園等の現場での仕事における文書等の作成・活用にあたっての基礎知識と理解		
[使用テキスト・参考文献]			
よくわかる Microsoft Word 2013 & Microsoft Excel 2013 & Microsoft PowerPoint 2013 (FOM 出版) 無料の楽譜作成ソフトウェア MuseScore (ミューズスコア)			
備考			
定期テストは実施しない			

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
保育実習 I		実習	齊藤 静枝・初谷 千鶴子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
実習 1 1 日 (保育所) 実習 1 1 日 (施設)	4 単位	1 年次後期終了後 2 年次	必修 (保)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育実習		実習所からの評価表 (80%) 実習録 (20%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
[授業の目的・ねらい]			
保育所や福祉施設での実習を通し、それぞれの役割・機能、業務内容、対象者への理解、その保護者への支援について理解を深める。さらに、それぞれの観察と既習内容を踏まえ、計画・記録・自己評価等の理解に結びつける。保育士の業務内容、職業倫理について具体的に理解をする。			
[授業全体の内容の概要]			
保育所やそれ以外の児童福祉施設において、それぞれの役割や機能、子ども・対象者への理解、保育内容や生活環境への理解を深める。さらに、指導計画(支援計画)を学び、記録や自己評価への反映方法を知る。また、専門職としての倫理について、習得する。保育所実習：平日 1 1 日間 9 0 時間以上、児童福祉施設実習：1 1 日間 9 0 時間以上。			
[授業終了時の達成課題 (到達目標)]			
保育所の役割や機能、保育士の業務内容や倫理観を習得する。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
<p><b>【保育所実習】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割、機能について (保育所保育指針に基づいて)</li> <li>2. 子どもの理解 (観察と記録から)</li> <li>3. 保育内容や保育環境について</li> <li>4. 保育の計画・観察・省察 (評価の理解を含む)</li> <li>5. 保育士の役割と職業倫理 (業務内容、連携、協働)</li> </ol> <p><b>【児童福祉施設 (保育所以外)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設の役割、機能について (施設における子どもの生活、保育士の援助)</li> <li>2. 子どもの理解 (観察と記録から 援助の状態に応じた生活と対応)</li> <li>3. 子どもの生活と環境 (心身の状態に応じた生活と対応 健康・安全管理対策)</li> <li>4. 計画と記録 (支援計画の理解、活用、省察、自己評価)</li> <li>5. 専門職としての役割・職業倫理 (業務内容、連携)</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]			
テキスト 小林育子他 (2018)「幼稚園・保育所・施設実習ワーク」萌文書林 参考書・参考資料等 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 (2018)			
備考			
実習11日間(90時間相当)はすべて出席する事			
実務経験[齋藤]			

公立保育所において保育士(正職)として40年間勤務する内、クラス担任30年、園長、副園長として10年の経験を活かして、実践的な授業を実施する。

実務経験[初谷]

保育士として保育所、児童相談所での勤務経験、社会福祉士・精神保健福祉士としてのスクールソーシャルワーカーの経験を活かし、子ども家庭福祉分野・社会的養護における現状とその課題、支援のあり方についてより実践的な授業を実施する。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
保育実習指導 I		演習	齊藤 静枝・初谷 千鶴子
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
30 回	2 単位	1 年前期・1 年後期	必修 (保)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育実習		授業内提出物 (70%) 報告書 (30%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
[授業の目的・ねらい]			
1. 保育実習の意義、目的を理解する。 2. 実習生としての心構えを理解し、職業倫理を形成する。 3. 保育実習の内容(保育所・施設)を理解する。 4. 実習の実践、観察、指導案、記録の方法や内容について理解する。 5. 実習の事前学習を通して実習に向けた課題を明確にし、事後的反省を通して実習についての自己評価と今後の課題を明確化させる			
[授業全体の内容の概要]			
保育実習(保育所・施設)を行ううえでの知識・技術の習得をとおして、実習の観点、日誌の記録の方法を学習し、実際の計画立案につながる実習課題を明確にする。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
保育実習の意義や目的を理解し、保育所や施設の内容(特性)を習得する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	オリエンテーション(保育実習の概要・実習の手続き)		
2	保育実習の目的・方法について		
3	実習生としての心構え(1)(守秘義務・人権尊重)		
4	実習生としての心構え(2)(子どもの最善の利益・職業倫理)		
5	履歴書記載指導		
6	保育実習の内容(保育所)①(3歳未満児)		
7	保育実習の内容(保育所)②(3歳以上児)		
8	保育実習の観察の観点(乳幼児の発達)		
9	保育実習の観察の観点(乳幼児の安全)		
10	日誌の記録の方法について(全般)		
11	日誌の記録の方法について(3歳未満児)		
12	日誌の記録の方法について(3歳以上児)		
13	日誌の記録の方法について(まとめ)		
14	部分・責任実習・指導案の立案の実際①		
15	保育実習にむけた課題の明確化①		

次ページへ続く



保育実習指導 I の続き

16	部分・責任実習・指導案の立案の実際②
17	児童福祉施設の概要と現状について
18	施設保育士の役割の理解
19	施設入所児童・利用者の理解① (措置系施設)
20	施設入所児童・利用者の理解② (利用契約系施設)
21	施設実習における観察の観点
22	施設実習における日誌の記録方法
23	入所児童・利用者の権利擁護
24	保育実習直前指導 (具体的な留意事項)
25	保育実習直前準備
26	保育実習の目的の確認と心得
27	保育実習にむけた課題の明確化②
28	保育実習事後指導 ①
29	保育実習事後指導 ②
30	保育実習の自己評価と今後の課題の明確化
[使用テキスト・参考文献]	
わかば社：「わかる・話せる・使える保育のマナーと言葉 改訂版」 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館 参考書・参考資料等：幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 (2018) DVD「はじめての保育実習 I・II」株式会社新宿スタジオ	
備考	
定期試験は実施しない。	
実務経験[齋藤]	
公立保育所において保育士(正職)として40年間勤務する内、クラス担任30年、園長、副園長として10年の経験を活かして、実践的な授業を実施する。	
実務経験[初谷]	
保育士として保育所、児童相談所での勤務経験、社会福祉士・精神保健福祉士としてのスクールソーシャルワーカーの経験を活かし、子ども家庭福祉分野・社会的養護における現状とその課題、支援のあり方についてより実践的な授業を実施する。	